

学祖をはじめとする成医会有志によって、明治15年(1882)8月、東京府知事・松田道之宛に請願書が提出された。その内容は、旧東京府病院跡を借り受けて施療病院「有志共立東京病院」を開院するというものであった。ところが、その夏、コレラが大流行し、借受が延期されてしまう。しかし、事前



病院を設立した頃の高木兼寛

コレラ禍での病院設立 高木兼寛

に周到な準備を進めてきた創立委員会としては、いつともしれないコレラの収束を待つわけにもいかない。そこで、明治15年(1882)8月11日、芝公園五号十番(現港区芝公園一丁目三)の「天光院」を仮住まいとして、施療病院「有志共立東京病院」を開院することとなった。「天光院」の前には、連日長蛇の列ができ、高木兼寛や松山棟庵は診療に忙殺された。入院患者は定員20名であったが、空きが生じることはなかったという。

02 巻頭言

新型コロナウイルス感染症第三波を迎えて

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

Feature

<COVID-19>

慈恵大学病院の対応

04

病院長の視点から

慈恵大学病院 病院長 井田 博幸

06

新型コロナウイルス感染症に対する附属病院の取り組み

感染対策部長 中澤 靖

07

COVID-19 克服に向けて

感染対策部 感染管理認定看護師 美島 路恵

08

御成門小学校児童からの作文集・港区長感謝状授与

Ongoing

09 01 教育

コロナ禍での教育

コロナ禍での経験を今後活かそう ―本学医学科の教育―

医学科長・分子生理学講座 教授 竹森 重

11

COVID-19影響下における看護学科の教育について

看護学科長・在宅看護学 教授 北 素子

13

学生が考える、コロナ禍における教育

学生委員長・学生カリキュラム委員 医学科3年 馬場 有夢
元学生会長 看護学科3年 小池 結友

15 02 研究

エクソソームを標的とした泌尿器癌新規治療法開発への挑戦
～Physician Scientistを目指して～

泌尿器科学講座 助教 占部 文彦

17 03 研究

スギ花粉症の発症に関わる花粉内アジュバントと受容体の解明

自然科学教室生物学研究室 平塚 理恵

19 04 診療

総合医科学研究センター
細胞加工施設JIKEI-CPFを利用したキムリアによる治療総合医科学研究センター 悪性腫瘍治療研究部 部長
細胞加工施設 JIKEI-CPF 運営管理責任者
村橋 睦了

New Organization

新たなる講座の紹介

21

疼痛制御研究講座

疼痛制御研究講座 特任教授
支持療法疼痛制御研究室 特任教授
上園 保仁

22

エクソソーム創薬研究講座

エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄

23

腎臓再生医学講座

腎臓再生医学講座 特任教授 小林 英司

24

研究推進課紹介

研究推進課 課長 南波 勉 赤石 和久

Nursing

25

大学院での学びを経てがん患者を支える
がん看護専門看護師としての機能

附属病院 がん看護専門看護師 小嵐 順子

26 News Flash

- 4月 新入生への思いが凝縮されたビデオメッセージ
- 7月 看護学科WEBオープンキャンパス
- 10月 公益財団法人メトロ文化財団主催医療従事者支援「東京都交響楽団音楽会」の開催
- 11月 子ども向け新型コロナウイルス感染予防動画を制作
- 9月 東京慈恵会医科大学創立140年記念事業 記念碑建立
- 9月 COVID-19の本学への影響とその対策についての全体説明会
- 10月 第137回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」の受賞について
- 2021年 主な行事予定表

33 Notice

- 大学広報(行事/公示/学事/訃報/東京慈恵会公報)
- 補助金・助成金
- 生涯学習・公開セミナー等
- 寄付のお願い
- ガバナンス(行動憲章/行動規範)
- 医療連携窓口のご紹介

新型コロナウイルス感染症 第三波を迎えて



学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

The JIKEI第35号では、新型コロナウイルス感染症に対する本学の取り組みが取り上げられています。第34号の発刊時に、新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応をご報告したほうが良いと考え、差し込み記事で“新型コロナウイルス感染症に対する本学の取り組み”についてご説明しましたが、その後、感染の状況が変わっているので、本号では現況を踏まえた意見交換が行われるものと思います。

現在、新型コロナウイルス感染症患者数は、日々増えており第一波、第二波を超える勢いで、第三波と認識されています。日本は外国に比べて、死亡例と重症例が少なく、この点について様々な研究と議論があります。日本におけるマスク着用や手指消毒の励行、換気に対する注意などが、外国に比べて徹底されていることや、高齢者施設や病院での面会が厳しく規制されていることなどが要因として考えられています。高齢者は若年者に比べて、感染すると死亡率が著しく高くなるのが分かっていますので、特に、注意が必要です。これからも、感染予防の基本を守ることが必須です。最近、Go Toキャンペーンが推進され、以前に比べ、人の動きが活発になり、感染が拡大しているように感じます。また、個人の意識にも変化が見られ、気持ちが緩んでいることも患者増加の一因と考えられます。

新型コロナウイルスに感染しても若い人は重症化しないと考えている方が多いと思いますが、感染が重症化せず軽症で終わったとしても、後遺症に悩んでいる方が多いという調査結果があります。倦怠感、咳などの後遺症によって生活の質(Quality of Life)が低下することは、個人的にも社会的にも大きな問題

です。

また、感染を恐れて受診が控えられており、がんなど重篤な疾患を抱えている方の受診が遅れ疾病が進行した例が多々あることが報告されています。診療科によって異なりますが、平均的に約20-30%受診者が減少していると言われています。これは新型コロナウイルス感染症による副次的な影響です。高齢者の方は感染を恐れて外出機会が減り、運動不足になり筋力が低下して転倒したり、糖尿病が悪化している例が報告されています。このように、新型コロナウイルスは私たちの日常に大きな負の影響をもたらしています。今後も細心の注意が必要です。

医療の第一線で働いている医療従事者は緊張の連続ですが、医療従事者に音楽を届け、安らぎのひと時を過ごして欲しいという趣旨で“音楽の贈りもの”という音楽会が、2020年10月13日、2号館講堂で開催されました。人数を制限して密を避け、短い時間の演奏会でした。メトロ文化財団が、東京都交響楽団の弦楽四重奏楽団を派遣してくれ、素晴らしい演奏に心とむひと時を過ごし、明日へのエネルギーをもらいました。メトロ文化財団は、東京メトロ沿線の施設などに音楽を届ける事業を展開していて、慈恵に声がかかったものです。以前、高木会館で演奏会が開催されたことがあり、2度目の演奏会でしたが、これからも機会があればお願いしたいと考えています。人と人の直接的なコミュニケーションが難しくなっていますが、音楽は言葉を超えて人々の心にメッセージを届けます。新型コロナウイルス感染症との闘いの合間に、これからも、音楽によって私たちは癒され励まされるものと思います。

<COVID-19>

Team COVID-19 の設立

患者さん・教職員の安心、安全、
そして、社会貢献と特定機能病院の両立を目指して

慈恵大学病院の対応



外来棟入口に設置されたサーモセンサー



外来棟入館受付の様子



■ 病院長の視点から 慈恵大学病院 病院長 井田 博幸

■ 新型コロナウイルス感染症に対する附属病院の取り組み 感染対策部長 中澤 靖

■ COVID-19 克服に向けて 感染対策部 感染管理認定看護師 美島 路恵



病院長の視点から

慈恵大学病院 病院長
井田 博幸

1 はじめに

慈恵大学病院は2020年2月11日、ダイヤモンドプリンセス号からCOVID-19陽性患者さんを7E病棟の陰圧室に受け入れました。慈恵大学病院がCOVID-19診療をスタートした記念すべき日です。感染防御に十分な配慮をしていましたが一般病棟に入院していた患者さんが2020年4月1日にPCR陽性となり患者さん9名、看護師8名、医師3名、臨床工学士2名の計22名のクラスターが発生しました。この事態を一刻も早く収束させるため診療機能をストップするという苦渋の決断をしました。この結果、患者さんや紹介医の先生にご迷惑をおかけしてしまいました。また、教職員が入院/勤務停止になる、そして入院患者さんがCOVID-19に罹患する事態になりました。病院長としてこのような事態を招いた事に大変、心を痛めました。しかし、ここで控えては病院長の責務を果たせないと考え、感染対策を充実させ、COVID-19診療を継続した結果、2020年12月6日現在、332名のCOVID-19陽性入院患者さん(うち重症:15名、中等症:44名)の診療を行っています。ここでは病院長の視点からCOVID-19に関する慈恵大学病院の対応について概説します。

2 COVID-19対応組織の設立

COVID-19に特化した病院の問題に取り組むため、病院長直轄の組織であるTeam COVID-19を2020年2月21日に設立しました(チームリーダー:中澤靖先生)。Team COVID-19は第一波と第二波の最中には毎週、会議を開催してCOVID-19に関する東京都の動向と慈恵大学病院の現状/問題点の報告、そしてそれらを元にした対策の立案・作成などを行い、慈恵大学病院のCOVID-19対応の方針策定を担っていただきました。Team COVID-19はまさに慈恵大学病院のCOVID-19診療のエンジンと言えます。

3 病棟の再編

当初、7E病棟をCOVID-19陽性患者さん、8E/9E病棟をCOVID-19疑い患者さん用の病棟として使用しました。このため、135床がCOVID-19対応として使用され、休止床やICUを入れると総ベッド数1070床のうち165床が一般病床として使用不能な状況でした。特定機能病院としての機能を果たすために一般病床の増床が必要でしたので、8月1日から8/9E病棟を一般病床に変更して21H病棟をCOVID-19疑い患者さん用の感染管理病棟にしました。この結果、一般病床として使用不能な病床数は97床まで削減できました。2021年2月には4E病棟の改修が終了し、COVID-19関連の患者さんの入院診療は4E病棟と7E病棟陰圧室に集約される予定です。これにより個室数が増加するとともに一般病床として使用不能な病床数を53床まで削減することができます。COVID-19陽性の重症患者さんは隔壁を設けるなどの感染防止策を取りながらICUに収容しました。COVID-19陽性患者さんが少ないフェーズ1においてはCOVID-19陽性患者さん用ベッドを2床、一般ICUを17床、COVID-19陽性患者さんが増加したフェーズ2においては前者を7床、後者を12床とする運用を行っています。



4 検査体制の確立

慈恵大学においては熱帯医学講座がCOVID-19の流行当初からPCR検査法を確立していました。慈恵大学病院がCOVID-19診療に早期から貢献する事ができ、それ以降もCOVID-19診療を継続できたのは熱帯医学講座の方々PCR検査を献身的に行っていた事が大きな要因の一つです。その後、COVID-19診療に関する検査を中央検査部で実施できる体制を構築しました。PCR検査についてはBD-maxを4月11日から、QS5を7月20日から、スマートジーンキットを9月19日から、そしてLAMP法による検査を9月23日から稼働させました。これにより日勤帯/夜勤帯/緊急時の検査体制が確立し、特定機能病院としての患者さんの受け入れ能力がアップするとともに現場の方々の感染リスクが軽減されました。

院内感染の苦い経験から2020年4月20日から入院患者さん全員に入院前にPCR検査を実施するとともに大多数の入院患者さんに入院前胸部CT検査を行っています。4/20から12/4までにPCR検査は8072名(うち陽性5名)に、CT検査6627名(うち肺炎像あり:325名)に実施しています。

5 環境/施設の整備

患者さんと教職員の感染リスク軽減のため、外来棟入り口での問診/サーモグラフィーによる検温、各窓口へのビニールカーテン設置、ソーシャルディスタンスの確保、消毒の強化などの環境整備を行いました。また、歯科外来の換気改善、分娩室の陰圧化、透析室のCOVID-19仕様への変更などの施設整備を行いました。今後、iPadを用いて診療を行うことにより教職員とCOVID-19陽性患者さんとの接触機会を減少させるリモート診療環境を整備する予定です。

6 教職員への配慮

COVID-19診療の最前線で働いて下さっている方々に2020年4月から特殊勤務手当を、家庭の事情により帰宅ができない方々に宿泊費のサポートを開始しました。COVID-19診療に携わる医療従事者の精神的支援のため、5月7日にはCOVID-19メンタルヘルスサポート室を設

置しました。また、医療従事者の感染防御のためPAPR(Haloマスク)を数多く購入するとともにN95マスク・サージカルマスク・ガウン・消毒薬などが医療現場に十分に供給できるような体制を構築しています。

7 おわりに

慈恵大学病院におけるCOVID-19との闘いも約10ヶ月を経過しました。この間、教職員と患者さんの安全を第一に考える事、そして社会貢献と大学病院機能を両立する事を基本方針として慈恵大学病院を運営してきました。高い職業意識を持ってCOVID-19診療に当たって下さるとともに日常生活にも注意を払って慈恵大学病院に貢献して下さいいる教職員の方々には心から感謝しています。そして慈恵大学病院で働く人々に対して物品/財政的支援のみならず精神的支援をしていただいている同窓をはじめとする慈恵大学を愛して下さいいる方々にも感謝しています。

COVID-19との闘いはまだまだ続きます。COVID-19を克服するためには一致団結・プロフェッショナリズム・思いやりの3つがキーワードだと思います。そして、with/after COVID-19において病院のプレゼンスを上げるためには真に患者さんのための医療を実践し、社会貢献の精神をもって医療を行う事が重要だと考えています。

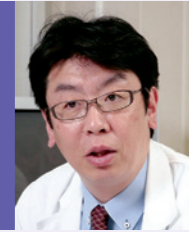


サーモグラフィーによる検温



PCRセンターにおけるCOVID-19の検査

新型コロナウイルス感染症に対する 附属病院の取り組み

感染対策部長
中澤 靖

1 はじめに

本学は2月のダイヤモンドプリンセス号でのクラスター対応への人員派遣をはじめとして、当初からCOVID-19対応に積極的に関与してきた。現在の附属病院の診療や外部支援の取り組みについて紹介する。

2 附属病院の総力を結集したCOVID-19診療

附属病院は早い段階から専用病床を用意し、今まで300名以上の陽性者が入院している。そのうちの行政からの依頼が7割以上を占めている。週末を含め毎日東京都や保健所から入院要請があり、現在1週間に約10~15名の入院がある。

専用病床においては感染対策が十分に施された状況で、感染症科と呼吸器内科が中心となって診療にあたっている。また重症化し人工呼吸が必要になった患者は直ちにICUに転床して集中治療部が診療する体制ができていく。当初この病気の性質に不明な点が多かったが、診療の経験も蓄積されてきている。特效薬はない状況であるものの、内外のエビデンスを元に現在できうる適切な治療を提供できていると考えている。

家族入院を多数受け入れているのも当院の特徴である。今まで27件の家族入院を受け入れており、おそらく最も家族入院を受け入れている病院であろう。また陽性妊婦の出産についても対応しており、今まで3件の帝王切開による出産例を経験している。これらの領域は一般病院では対応が難しいところであるが、小児科や産婦人科に積極的に受け入れていただいている。

当院のCOVID-19診療は、救急部をはじめとする上記以外の診療科や、看護部、中央検査部、画像診断部などすべての部門の協力があって機能している。まさに総力を結集し一丸となって対応しており、病院長の強いリーダーシップの下、感染対策部は関係する部門を結びつけるハブとして活動している。

3 豊富な経験をもとにした外部支援

当院では診療や日々実践してきた感染対策の経験をもとにして、様々な外部支援も行っている。

一つは他施設のクラスター対応の協力である。例えば8月には港区のある病院でのクラスター事例があった。当院感染対策部は協力要請を受け、クラスター発覚当日の夜に当該病院の感染対策部門、みなと保健所とでオンラインのミーティングを実施し対応の方針を確認した。病院長に報告し了解を得た上で、翌日には本学のPCRセンターで100件程度のPCR検査を実施した。同日、当院の感染管理認定看護師を派遣して接触者対応や感染対策の立案のアドバイスを行った。最終的にこの事例は大きな拡大なく終息でき、港区の医療への悪影響を最小限にする事ができたと考えている。

更に、軽症者のホテル宿泊療養にも協力している。現状、ホテルに収容された軽症者はオンラインで看護師や医師に健康チェックを受け、重症化の兆候がある場合患者は後方支援病院に転送される仕組みになっている。当院は現在二つのホテルを受け持ち、日々感染症科や救急部医師が対応している。このホテル宿泊療養は東京都の医療ひっ迫を緩和する重要な仕組みであり、特に患者が急増している時期はその意義は大きい。当院はこのシステムの立ち上げから関与しており、行政にも評価されている。

4 終わりに

コロナ禍においてもそれ以外の疾病に悩む患者は減るわけではない。社会には今まで述べたようなCOVID-19診療や外部支援のみならず、普段からの特定機能病院の役割を果たすことも求められている。これらの継続のためには院内感染の再発防止が重要なのは言うまでもない。しかし第3波を迎え他院でクラスターが相次いでいる。感染対策部として今まで以上に同窓や各部署の協力も得ながら、この難局を乗り越えて行きたいと考えている。

COVID-19克服に向けて

感染対策部
感染管理認定看護師
美島 路恵

1 はじめに

私は感染管理認定看護師として、2005年から専従で感染対策部に従事している。感染管理認定看護師とは、日本看護協会が認定する「感染対策における高度な専門知識や実践力をもつと認定された看護師」である。院内の患者さんや職員を感染から守るために、感染対策の構築、指導、実践、相談を業務としている。今までも新型インフルエンザ、多剤耐性菌等様々な感染症と対峙してきたが、COVID-19については、世界の社会情勢が一変する感染症であり、その対策、対応は困難の連続であった。いつまでこの戦いが続くのか先が全く見えない状況であるが、看護師の立場から本学の取り組みについて紹介する。

2 新外来棟におけるCOVID-19対応

新外来棟は設計段階から関与させて頂き、港区という立地から輸入感染症対策として感染症患者の診察場所や動線等を考慮し、また、感染症科外来だけではなく各科外来にも陰圧室を整備することができた。満を持して2020年1月に新外来棟がオープンしたのだが、まさかこんなにも直ぐに有効活用されるとは想像もしていなかった。新外来棟では1月半ばから感染症トリアージを強化し、一般の外来患者さんと動線を完全に分離させ、保健所と協働してこれまでに多くにCOVID-19(疑い含む)患者さんを診療することが出来ている。

3 COVID-19入院症例の受け入れ

入院症例は3月中旬からかかりつけの患者さんや、夜の街関連、海外からの帰国者、保健所からの依頼など一気に増え始め、重症度、医療・看護必要度も一気に上がった。COVID-19受け入れ病棟の看護師には、受け入れ前からN95マスクをはじめとした防護用具の着脱訓練などを行って準備をしていた。しかし、第1波が落ち着くまでは重症者が多かったこともあり、使命感はあるものの、未知の感染症という恐怖感もあり、そのはざまで揺れ動いている様子があった。受け

入れ当初はそのような状況ではあったが、日に日に感染症看護のスキルが上がり、使命感を持って積極的にCOVID-19患者の受け入れを行ってくれている。また、COVID-19に対応しているスタッフから1人も感染者が出ていないことは、大変誇らしい思いである。

4 院内クラスターの発生

4月1日に入院中の患者さんがCOVID-19に罹患していることが判明し、その後、患者、職員合わせて22名ものクラスターが発生する事態となった。すぐさま病棟閉鎖し、接触者のリストアップ、PCR検査の実施、接触した患者の隔離、職員の就業停止指示、関係各所への説明等混乱を極めた。感染してしまった患者さんからは「がんの治療のために入院したのに、治療が中断してしまった」等のご意見をいただくなど、感染してしまった患者さん、さらには職員についても身体的にも精神的にも辛い思いをさせてしまった。二度と患者さん、職員にこのような思いをさせてはならないと、院内が一丸となって再発防止策を講じている。その1つとして入院前検査センターを設立し、全入院患者さんに対し、入院前のPCR検査、胸部CT検査を実施している。しかし、入院前にスクリーニング検査を実施しても持ち込みを100%防ぐことは難しい。そのことから、手指衛生、環境整備、ユニバーサルマスクポリシー等基本的な対策の遵守が重要であり、この基本的な感染対策遵守向上を目指した取り組みを実施している。今年身につけた感染対策が喉元過ぎればではなく、確実に当たり前に行える組織作りを目指していきたい。

5 おわりに

当院は私学の中でもトップクラスのCOVID-19患者を受け入れており、社会から求められる役割に応じて対応してきた。今後もCOVID-19との戦いはまだ続きそうではあり、患者さんと職員を感染から守れるよう、さらにはCOVID-19に感染した患者さんが早期に回復できるよう職責を果たしていきたい。

慈恵大学病院の支援に対して、御礼をいただきました。

ありがとうございます 慈恵大学病院 一同

御成門小学校児童からの作文集

新型コロナウイルスの中で働く附属病院のみなさんへの感謝

本学は、研究成果を社会に還元する(アウトリーチ)活動のひとつとして、港区教育委員会と連携し、御成門小学校の理科、がん教育の出張授業を2018年から行っています。

御成門小学校校長の和田京子先生から、令和2年8月3日に東京慈恵会医科大学附属病院のみなさんへ

の小学1年生～6年生児童の作文集をいただきました。この作文集は、御成門小学校における道徳の授業「新型コロナウイルスのことや患者さんに対する偏見をなくすこと」が小学1年生～6年生の児童に実施され、附属病院で働くみなさんへの感謝の意がこもったものです。とても心温まる作文となっています。



アウトリーチ活動推進委員会

港区長感謝状授与



写真左:みなと保健所松本加代所長 右:井田博幸病院長

新型コロナウイルス感染症拡大早期より、当院は港区と連携しながら感染症に対する医療提供に尽力し、港区民の生命健康を守ることに寄与してまいりました。その功績を称えられ、港区 武井雅昭区長より感謝状が贈呈されました。9月18日、みなと保健所 松本加代所長、他2名が当院へお越しになり、感謝状の授与とあわせて激励の御言葉をいただきました。同日の様子はケーブルテレビJ:COMにて放映されました。



01 Ongoing 教育 コロナ禍での教育

医学科の教育

コロナ禍での経験を 今後に活かそう — 本学医学科の教育 —



医学科長・分子生理学講座
教授 竹森 重

授業を遠隔にできませんか？ 急ごしらえで遠隔授業へ

中国での深刻な状況を伝える報道が2020年年明けから続いていました。2月に入ると国内の状況も緊迫し、感染拡大防止のための時差通学実施、医療現場の負担と感染防護具の節約のための臨床実習中断を相次いで決めて3月を迎えました。学校を休業させた国々での通信を介した遠隔授業の報道に、本学でも遠隔授業体制を整えて教育を継続できるようにしておく必要性を痛感しました。

通信を介した教育システム(eラーニングシステム)は本学でも一部で稼働していましたので、その管理をしている教育センターの責任者にどんな遠隔授業ができるか相談しました。即答でした。「先生方が授業用にパソコンで作っているプレゼンテーションに音声吹き込んでいただき、eラーニングシステムで学生に配信するのが現状でベストで

す！」そしてプレゼンテーションに音声吹き込む方法を教えてくれました。

早速私の授業用プレゼンテーションを遠隔向きに改変して声を吹き込んでみました。それを教学委員会で見てもらって、これしかない!と決断しました。この方式の遠隔授業への対応可能性と予想される困難とを授業担当者にアンケートしたところ、時間とサポートがあればできるとの回答を多く得ました。そこで私のところの講座員たちを教育センターの補助に動員してサポート体制を組み、できることからとにかく始めることにしました。

当初は時差通学で登校授業から溢れる部分を遠隔授業で補う予定でした。しかし感染状況はさらに深刻化し、3月26日には登校授業を当面取りやめて遠隔授業だけで新年度を開始することにしました。3月28日からは学生の大学施設利用を原則禁ずることにもなりました。

手探りで登校授業の再開へ

こうして準備のできた遠隔授業で新年度を開始したのは4月3日でした。入学式はおろか大学に登校する機会も持てないままの新生には、WHOの進藤奈邦子先生が医療コミュニティへの参加をお祝いするビデオメッセージを送っていただきました。

遠隔授業で起こる問題を修正しながら、各種資料を学外からも通信を介して見られるようにする手続きや、図書館資料の宅配貸出制度などの整備を急ぎました。その一

遠隔授業が勝る部分を遠隔に移し、
大学ならではの発展的な教育を登校での授業に
濃縮する努力を始めるべき時……
そのためにはコロナ禍前に回帰しようとする慣性を、
皆で意識して方向転換させる必要があります。

方では登校授業再開に向けた教職員と学生との合意形成のための議論を5月13日に開始しました。6月に入ると学生有志から「慈恵生のためのすぐに活かせる行動指針」が頼もしく提示され、教員側からは新型コロナウイルス感染症に関する新生にもわかる教育コンテンツを6月23日にeラーニングシステムで全学生に配信しました。このコンテンツ作成には専門家会議や東京都コロナ対策審議会でご活躍の岡部信彦先生、濱田篤郎先生をはじめとした本学卒業生の方々が快く参加して下さいました。

これらの準備過程を経て、6月29日から6年生の参加型臨床実習を4附属病院で再開し、7月7日からは時差通学・分散での登校授業を各学年で順次開始しました。学内試験も7月10日の5年生の試験を皮切りに、実技試験も工夫を凝らして相次いで実施しました。8月末からは高学年の臨床実習を例年通りの日程で始め、他学年では学年担当教員が流れを整理しながら分散による登校授業と遠隔授業の併用で授業を進めています。

そしてこれから

社会一般は経済回復と感染拡大抑制のバランスを見ながら各方面で起動しています。医学部はしかし附属病院との往来があり、その他の各種医療関係機関にも教育の場を借りますので、医療を護ることに高い優先度を置く必要があります。このため各種活動には地域の感染と医療の状況をみた慎重な対応が求められます。医療現場

での対応、登校授業での感染対策、遠隔授業の作成と実施、研究の継続と展開と、各分野で複雑な対応を求められる教員・職員・学生のそれぞれに大きな負担がかかっています。この中でより厳しい状況の方々への想像力が求められていると感じます。

今後の展望として、多くの大学で「遠隔授業で学生が良く学業に勤しむようになったことを活かそう」という声が上がっています。本学においても多くの学生が自らに向き合う時間を持つようになったことが強く感じられ、試験結果で見る学生の達成度は例年を大きく上回りました。

とはいえ遠隔授業の大きな欠陥は、直接触れる自然・生命・医療の中に共振しながら学生個々が独自の世界像を紡ぐ過程を適切に促すという、大学ならではの発展的な教育が十分に提供できないことです。シミュレーションや仮想現実体験の教育への導入はまだまだで、せつかく例年以上の達成度で学び取ったことを素のまま抱え込ませることになります。

遠隔教育のための体制はこの半年で大きく進展しましたので、遠隔授業が勝る部分を遠隔に移し、大学ならではの発展的な教育を登校での授業に濃縮する努力を始めるべき時に来ています。そのためにはコロナ禍前に回帰しようとする慣性を、皆で意識して方向転換させることが必要です。とてもそのような余力はないという声が教職員、学生、保護者の皆様から聞こえてきそうですが、そこを枉げて皆様のご協力をいただきたくお願いする次第です。



看護学科の教育

COVID-19影響下における
看護学科の教育について看護学科長・在宅看護学
教授 北 素子

COVID-19の急速な感染拡大に伴い、2020年2月、政府から全国小中高校の臨時休校要請が提示される状況となりました。本学では教育部門を含めた大学全体の対策を検討する新型コロナウイルス感染症対策本部（以下、対策本部と略す）が設置され、臨地実習の全面中止と、学生に対するすべての大学施設の使用禁止が決定されました。学生の学びを保证するために、医学科とともに3月末に新学期から始まるすべての授業をeラーニングを用いた遠隔授業とすることとし、学生たちのPC保有状況やウェブ環境を含む学習環境調査と、教員たちによるコンテンツ作成を急ピッチで進め、4月8日から遠隔授業をスタートさせました。

5月から予定されていた4年生の臨地での老年看護学実習、成人看護学実習は中止の対象となり、遠隔によるシミュレーション実習でその内容と時間数を担保することで単位認定しました。しかし臨床現場での実習は、さまざまな健康状態にある人々への看護実践を通して、座学を通して学んできた看護学の知識を統合し、看護実践力を獲得する機会として、特に重要な位置を

占めており、遠隔やシミュレーションで代替することには限界があります。次に控える1年生、2年生、3年生の実習をどのように行い、卒後に臨床に送り出す時の看護実践力をどのように保証できるのか、という大きな課題に直面しました。

5月連休明けには感染の第一波は収束の兆しを見せ、対策本部会議において、COVID-19影響下における大学の事業継続計画（Business Continuity Planning:BCP）が策定され、その中で臨地実習再開の目安が示されました。また、医療人の育成という大学の使命に鑑み、再開許容目安内で、一定のリスクを理解しながら、十分な対策を講じた上で、必須の実習を実施してよいとの方向性が示され、看護学科も7月の1年生の基礎看護学実習からの再開に向けて動き始めました。

感染対策を十分に施したうえで実習を再開できるよう、附属病院看護部との管理者レベルでの再開時期や実習病棟の確認からはじまり、現場レベルでの打ち合わせへと、段階を踏んだ綿密な打ち合わせと調整を行いました。1病棟に配置する学生数を減らすこと、臨床現場で経験すべきことを厳選した上で学内実習あるいは遠隔実習と組み合わせて実施すること、1日の臨床現場での滞在時間は午前または午後の半日として食事を挟まないように工夫することを原則として全ての実習を再構成しました。また、様々なパターンで臨床現場での実習が途中で中止となりうることを想定し、即時に遠隔での実習に切り替えできるよう準備しました。さらに、対策本部から示された実習・見学等の感染対策ガイドラインに準拠し、「COVID-19感染症に対応した看護学

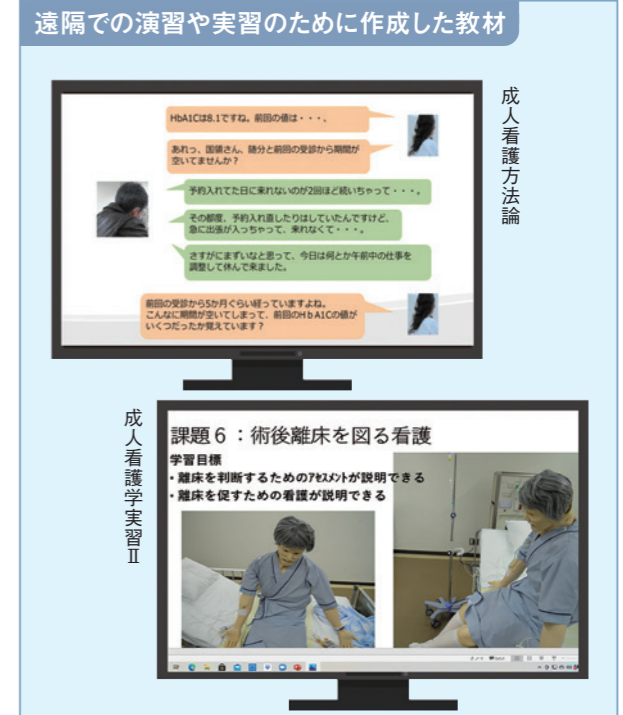
この状況下で赴くからこそその学びもあるでしょう。
得られたことは何か、足りなかったことは何か、
改めてしっかりと評価して
今後の教育に繋げていくことが
重要であると考えています。

科臨地実習における行動指針」とCOVID-19感染が疑われる症状がある場合等の対応フローを作成し、学生たちに実習開始2週間前からの厳密な健康チェック・管理と体調不良時の報告、アルバイト制限を含む不要不急の外出自粛を徹底するとともに、臨地実習に参加する学生と講義・演習などの登校授業の学生との接触を回避するための、学内の廊下や講義室等のゾーニングも行いました。

学生達にはCOVID-19に関する正しい知識と感染対策についての教育コンテンツをeラーニングを用いて配信するとともに、感染対策室に協力を得て実習に特化した感染対策について学習の機会を設けました。一方、家族内に感染者が出た場合に、学生は濃厚接触者となってしまうことから、ご家族にも理解を得る必要があります。感染症に関する教育コンテンツを共有するとともに、保護者会を通して適宜、看護学科の方針を伝えるようにしました。

このような対策のもと、7月に1年生の初めての病院実習である基礎看護学実習を、9月には2年生の生活過程援助実習と4年生の総合実習を無事に終わらせることができました。10月からは3年生の領域別実習がスタートしています。体調不良者には迅速にフローに従って対応し、感染者および濃厚接触者の発生なく経過しています。

多くの看護系大学が臨床現場での実習を行えない状況にある中で、その再開は大きな決断でしたが、本学で実現できた（できる）のは、対策本部から根拠データに基づいて示される明確な方針と、感染対策部のバックアップ、そして臨床現場の理解と協力、教員達の



熱意と献身があつてのことであると感謝申し上げます。様々な制約の中で実施されている実習ですが、緊張感を持って臨みながらも生き生きと水を得た魚のように実習に取り組み、実習目的を達成していく学生達の様子からは、いつも以上に看護学生としての感度を高め、乾いたスポンジが水を吸収するように、実習で出会う患者さん、ご家族、スタッフから様々な刺激を吸収していることがうかがえます。臨床現場での滞在時間が短かったからと言って一律に学習効果が減るわけではないのかもしれませんが、この状況下で赴くからこそその学びもあるでしょう。得られたことは何か、足りなかったことは何か、改めてしっかりと評価して今後の教育に繋げていくことが重要であると考えています。



遠隔実習を準備する教員

医学科



学生委員長・学生カリキュラム委員
医学科3年 馬場 有夢

私たち学生は全てが
元通りの学生生活になることを望むのではなく、
新しい方法を模索し、
適応していかなければならないと考えます。

COVID-19は私たちに未曾有の事態をもたらし、入念に編成されたカリキュラムは白紙と化しました。しかし、代替案としての全面的なオンライン授業の導入は、本学の医学教育を見直す良い機会となっています。

オンライン授業の利点は、講義に最もよく表れています。学習者の責任を重んじ、これまで出席を任意としていた講義は、全てeラーニングに移行しました。つまり学生は昼夜問わず、いつでも何度でも講義を閲覧することができ、自分のペースで学習することができます。また、双方向討論型の演習は、ビデオ通話サービス「Zoom」を利用することでオンラインでの実施が可能になりました。ディスカッションの質は対面時とほぼ変わらず、その上登校の必要がないため、今後の感染症の状況を問わない持続可能な方法であると思います。

しかし、実習を全てオンラインで代替するには限界があります。特に影響が大きかったのは臨床実習です。約4ヶ月間の全科臨床実習、クリニカルクラークシップの中止により、学生は病棟の患者さんからしか得られない学びがあると再確認しました。感染症のリスクを可能な限り低くしながら、臨床現場や大学での学びを再開したい。学生が感染症について主体的に考え、行動できるよう作成された『慈恵生のためのすぐに活かせる学生の行動指針』は、自粛期間中のもどかしい想いが原動力となっています。

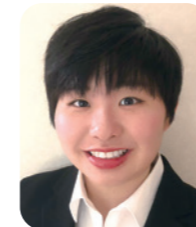
約半年後の現在では、オンライン授業と並行しながら、臨床実習はもちろん低学年の実習の一部も時差登校、感染対策を徹底して実施されています。知識のインプ

トをeラーニングで、アウトプットを実習や演習でと明確に分けることで、学習者の私たちも目的を明確にすることができ、より効率良く学ぶことができています。正解のない中で新たな授業形態を構築することができたのは、教員の先生方が学生の意見を積極的に取り入れくださる、本学の伝統的な土壌があったからだと感じます。

最後に、オンライン授業が継続していく上での課題も明確になってきています。その一つに自主学習のあり方があります。これまでは医師国家試験対策など、グループ学習を通して学生同士が教え合うことで学びを深めてきましたが、オンラインでの利点も積極的に取り入れ、個人学習とグループ学習を上手く使い分けるなど、自主学習のあり方を見直していく必要があると感じます。私たち学生は全てが元通りの学生生活になることを望むのではなく、新しい方法を模索し、適応していかなければならないと考えます。



看護学科



元学生会長
看護学科3年 小池 結友

この状況になったからこそ
仲間がいることの大切さや
学修できることの有難さを感じることができた…
今後もその学びを忘れずに胸に抱き続けていきます。

今なお感染者が確認され続けている新型コロナウイルスは当たり前だった私たちの日常を一変させました。自宅で過ごす日々、友人と会うこともままならない状況の中で大学での学修方法も大きく変わりました。

新型コロナウイルス感染拡大により大学への登校が制限され、通常通りの対面授業が実施できなくなってしまいました。そんな中、eラーニングやZoomを用いた遠隔授業が導入されたのですが、通常時の授業と比較して気軽に質問しにくい環境であり、授業中のちょっとした雑談もなく淡々と進む授業には少し物足りなさを感じることもありました。

出欠確認がリアクションペーパーで行われることが多かったため、体感的に課題の量が増えたように感じられ、課題の自己管理が難しく提出を忘れてしまう人が1人や2人ではないという状況にもなりました。生活過程援助論などの実技演習を含む授業は、本来であれば学内の実習室にて行われますが、登校が制限されていたため手順の確認などはeラーニング上でを行い、可能な範囲の技術チェックはZoomを活用して自宅で行いました。段階的な登校が可能になった7月以降になると少人数での実施という縛りはあるものの、登校して学内の実習室で先生方に直接技術のご指導をいただくことができました。しかし、限られた時間の中で実施しなければならず、やはり例年よりも自らの技術に不安が残るという声もあがっていました。

慣れない学習環境の中で、学生たちはどうにか順応しようと奮闘しましたが、例年と比較するとその学修は

不十分に感じられ、新型コロナウイルスの流行がなければと思わずにはいられませんでした。しかし、そんな状況下で現状を打開しようと学生は工夫を重ねていきました。提出物の漏れが目立つことに対して、学年内でLINEなどのツールを活用して提出期限の確認・リマインドを行い、お互いに提出物を把握できるようにしました。また、先生方も質問したい人のためにZoomを設けてくださり、それを最大限活用することによって受講時の疑問点や質問を解決できる環境を整えてくださいました。

4年生の総合実習は病棟に行けなかった領域もあり、模擬患者(ペーパーペイシェント)を活用した看護過程の展開、Zoomを用いたカンファレンスによるものもありました。1年生の基礎看護学実習や2年生の生活過程援助実習、3年生の領域別実習は段階的な登校が始まった7月以降の実施であったため、検温や手指消毒、マスク着用などの感染対策を徹底し、実習時間を短くしたうえで病棟に行かせていただきました。実際に患者さんと関わらせていただくことで得られる学びは大きく、実習できることの有難さを痛感しました。

新型コロナウイルスの流行は私たち学生の生活様式を大きく変え、不便さや不十分さを感じることも多くありました。しかし、この状況になったからこそ仲間がいることの大切さや学修できることの有難さを感じることができたのだと思います。そのことに気付くことができたことは必ず私たちの財産になると考えられるため、今後もその学びを忘れずに胸に抱き続けていきます。



エクソソームを標的とした泌尿器癌新規治療法開発への挑戦 ～Physician Scientistを目指して～

はじめに

これまでに当教室では泌尿器疾患に対する、新規診断法および治療法の開発を目指した研究を行い、先進医療の開発・普及に努めてきた。近年では、“エクソソーム”に着目した研究を展開しており、今回はその成果と今後の展望をご紹介します。

エクソソームとは

エクソソームはあらゆる細胞が分泌する脂質二重膜に包まれた細胞外小胞であり(図1)、あらゆる体液中を循環していることが知られている。エクソソームの発見は古く約30年前に報告されていたが、長らくは細胞が出すゴミとして注目されていなかった。しかし、近年このエクソソームに様々な遺伝情報(マイクロRNAやメッセンジャーRNAなど)や脂質、たんぱく質などが内包されており、これらの内包物が細胞間で受け渡されることで受け手細胞において機能し、様々な生理現象を引き起こすことがわかってきた。特に癌研究においては、癌細胞が分泌するエクソソームが、マイクロRNAをはじめとした癌特異的な遺伝情報を有するため、癌の診断や効果判定を行うバイオマーカーになり得ると期待されている。さらにエクソソームは、癌細胞の周囲の細胞や将来の転移先の細胞を制御し、自身に有利な環境に作り変えることで、癌の悪性化や遠隔転移の成立などに強く関わっていることも証明されてきた(文献1)。

血中マイクロRNAに着目した前立腺癌早期診断モデルの確立

前立腺癌は男性特有の癌であるが、その患者数は世界的に増加傾向にある。前立腺癌の腫瘍マーカーとしてPSAが有名であるが、前立腺肥大症や前立腺炎でもその値は上昇し、特異度が高い検査とは言えない。実際、PSAによって前立腺癌が疑われ、生検を施行した場合でも癌の陽性率は40-50%程度である。そこで、癌がもつ遺伝子の一種であるマイクロRNAに着目し、特に血液中に分泌されたマイクロRNAの種類と量を測定することで、前立腺癌の新規診断モデルの構築を目指した。

本研究ではこれまでにない大規模なサンプル数を用いて、網羅的に解析を行うことで、2種類のマイクロRNA(miR-17およびmiR-1185)を用いた最適化モデル式を作成した。このモデル式は前立腺癌診断について感度、特異度ともに90%であり、さらに、あらゆる病期においても高い診断能を示した(文献2、図2)。この成果は前立腺癌の早期発見と不必要な生検の回避に大きく寄与し、適切な患者の治療方針の決定に貢献すると期待されている。

エクソソームを標的とした新たな前立腺癌治療の開発

癌微小環境を制御し、癌の進展に寄与するエクソソームだが、これまで癌細胞特異的なエクソソームの分泌機構

を解明した報告は殆ど存在しなかった。癌細胞に特異的なエクソソーム分泌機構を解明することは、エクソソームによる細胞間コミュニケーションを遮断し、新規のがん治療法開発に繋がる可能性がある。そこで、我々は、前立腺癌細胞特異的なエクソソームの分泌機構の全容を明らかにし、新たな前立腺癌治療標的を同定することを目指した。

まず、マイクロRNAライブラリーとエクソソーム超感度測定法であるExoScreen法を用いてエクソソームの分泌遺伝子を同定するスクリーニング方法独自に確立した。このスクリーニング法を用いて前立腺癌特異的にエクソソーム分泌を抑制するマイクロRNA(miR-26a)を同定した。さらにこのmiR-26aによって発現が抑制される標的遺伝子(PFDN4, SHC4, CHORDC1)を同定することにより、前立腺癌細胞のエクソソーム分泌を制御する遺伝子群を発見した。

興味深いことに、これらのエクソソーム分泌を制御する遺伝子群を恒常的に抑制する前立腺癌細胞株をマウスに皮下移植したところ、腫瘍の増大が抑制された。その一方、それらの腫瘍にエクソソームを補充したところ、補充していない群と比較して腫瘍の増大速度が亢進することがわかった。

本研究で我々が同定した前立腺癌特異的なエクソソーム分泌関連遺伝子群と前立腺癌との関係を示した報告はこれまでになく、エクソソームを標的とした治療法の確立など、前立腺癌治療に大きく貢献する成果につながる事が

参考文献

- 1) Urabe F, et al. Extracellular vesicles as biomarkers and therapeutic targets for cancer. American Journal of Physiology Cell Physiology. 318: C29-C39, 2020.
- 2) Urabe F, et al. Large-scale circulating microRNA profiling for the liquid biopsy of prostate cancer. Clinical Cancer Research. 25: 3016-3025, 2019.
- 3) Urabe F, et al. miR-26a regulates extracellular vesicle secretion from prostate cancer cells via targeting SHC4, PFDN4 and CHORDC1. Science Advances. 6: eaay3051 2020.
- 4) Urabe F, et al. The miR-1908/SRM regulatory axis contributes to extracellular vesicle secretion in prostate cancer. Cancer Science. 111: 3258-3267, 2020.

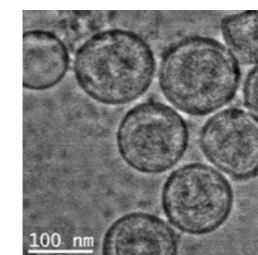


図1: エクソソームの電子顕微鏡写真(文献4より)

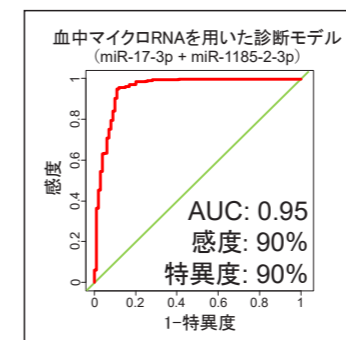


図2: 血中マイクロRNAを用いた診断モデルの構築したモデルの診断能(文献2より)

期待されている(図3)。

今後の展望

当教室ではこれまでも、独自に作成した日本人前立腺癌細胞株や間質性膀胱炎の動物モデルを用い、難治性泌尿器疾患の病態解明による新規治療法開発に取り組んできた。

さらに、近年では国立がん研究センターをはじめとした近隣の研究施設とも積極的に共同研究を行い、Physician Scientistの育成にも力を入れている。特に今回ご紹介した“エクソソーム”研究で世界をリードする落谷孝広先生(東京医科大学分子細胞治療研究部門)との共同研究では、臨床的問題解決に直結するようなトランスレーショナル研究を展開することで、泌尿器癌の新たな診断法や治療法の確立を目指した研究を日々行っている。現在は、癌治療の喫緊の課題である免疫チェックポイント阻害薬の効果や副作用の予測をエクソソームの観点から検証する研究も行っている。

外科系講座である当講座は外来、手術、病棟管理など日常業務に追われることもあるが、チームワークでそれを補い、泌尿器癌治療に貢献できるような成果を生み出すべく、これからも日々研究室で一丸となって邁進していくつもりである。

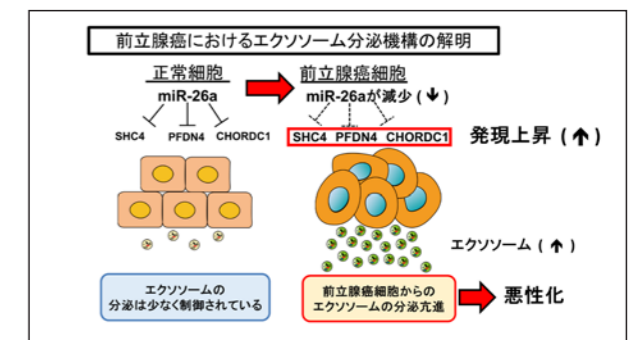


図3: 前立腺癌における特異的なエクソソーム分泌メカニズム(文献3より)



スギ花粉症の発症に関わる花粉内アジュバントと受容体の解明

背景—スギ花粉症のメカニズム

スギ花粉症は日本人の約4人に1人が発症するアレルギー疾患です。花粉症は花粉に含まれるタンパク質性アレルゲンに対するIgE抗体が体内で作られ発症します。IgEは粘膜などに常在するマスト細胞(肥満細胞)のFcε受容体に結合しているため、再び花粉が体内に取り込まれると、IgEとアレルゲンが結合し、その情報が受容体からマスト細胞内に伝達されます。マスト細胞から放出されるヒスタミンは粘膜を刺激し、アレルギー性鼻炎などが起こります。一方でIgEなどの抗体産生のためには、アレルゲン以外の免疫促進物質(アジュバント(注1))が必要とされます。一時期、花粉症に関わるアジュバントの正体は、ディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる微粒子ではないかと疑われましたが、排気ガスが規制された後でも花粉症は増え続けており、その発症に直接関係するアジュバントの正体は不明です。そこで、東京薬科大学免疫学教室の安達禎之准教授を中心とする私たちのグループはアレルギー反応を誘発する花粉内アジュバントと免疫細胞受容体の探索を試みました。

アレルギー反応を誘発する花粉内アジュバントと免疫細胞受容体の探索

まず、私たちは免疫細胞受容体に結合するスギ花粉内物質の探索を行いました。スギ花粉は水にぬれると破裂し、花粉の外壁が花粉管細胞や生殖細胞を包む内壁から除去されます。この内壁と外壁に受容体タンパク質のデクチン-1(注2)を作用させ蛍光顕微鏡で観察すると、デクチン-1は外壁の内側にスポット状に分布していました。デクチン-1はβ-グルカン受容体として樹状細胞に存在するため、外壁にβ-グルカン(注3)が含まれるかを確かめるために、デクチン-1とは別のβ-グルカン結合タンパク質(BGRP)を昆虫の遺伝子から作製し、免疫電子顕微鏡で観察した結果、花粉外壁にβ-グルカンが存在することを明らかにしました。

花粉外壁のβ-グルカンの免疫細胞への影響を明らかにするため、マウスから樹状細胞(注4)を分離し、外壁成分と培養したところ、免疫活性化に関わるサイトカイン(IL-6やTNF-α)が産生されていました。一方、デクチン-1欠損マウスの樹状細胞を外壁成分と培養してもサイトカインを産生しないことから、外壁のβ-グルカンがデクチン-1に作用して免疫細胞を刺激すると考えられました。

次に、スギ花粉をマウスの鼻腔内に投与し、花粉症様の症状を誘導したところ、野生型マウスは花粉投与後、多くのくしゃみをしたが、デクチン-1欠損マウスはくしゃみの回数が少なく、花粉に対して反応しにくくなっていました。またそのマウスの血液を採取し、スギ花粉アレルゲンに特異的なIgE抗体を調べたところ、デクチン-1を持つ野生型マウスはIgEの産生が高まったのに対して、デクチン-1欠損マウスは著しく低値を示しました。これらの結果からスギ花粉のβ-グルカンはデクチン-1に作用して免疫を活性化し、花粉アレルゲンに対するIgE抗体産生を促進することが明らかになりました(図)。スギ花粉中のアジュバントの正体はβ-グルカンだったのです。

次に、スギ花粉をマウスの鼻腔内に投与し、花粉症様の症状を誘導したところ、野生型マウスは花粉投与後、多くのくしゃみをしたが、デクチン-1欠損マウスはくしゃみの回数が少なく、花粉に対して反応しにくくなっていました。またそのマウスの血液を採取し、スギ花粉アレルゲンに特異的なIgE抗体を調べたところ、デクチン-1を持つ野生型マウスはIgEの産生が高まったのに対して、デクチン-1欠損マウスは著しく低値を示しました。これらの結果からスギ花粉のβ-グルカンはデクチン-1に作用して免疫を活性化し、花粉アレルゲンに対するIgE

抗体産生を促進することが明らかになりました(図)。スギ花粉中のアジュバントの正体はβ-グルカンだったのです。

今後の展開

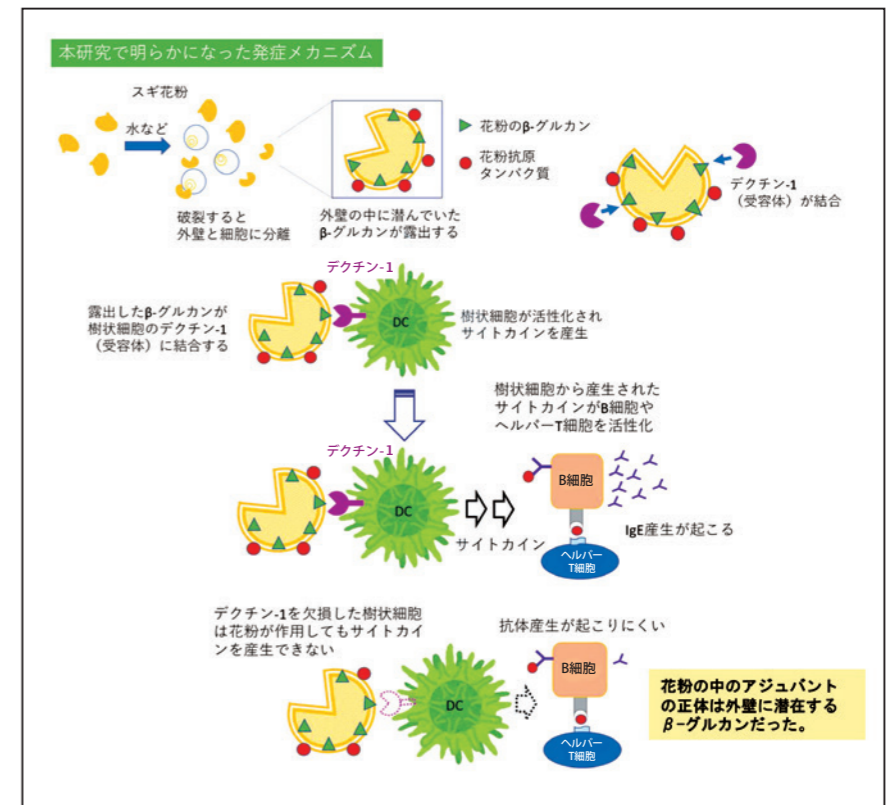
スギ花粉症発症に花粉β-グルカンと樹状細胞のデクチン-1が重要な鍵を握っていることが分かりました。デクチン-1欠損マウスのようにデクチン-1が花粉に対して働

参考文献

- 1) Kanno T, Adachi Y, Doi K O, Matsuhara H, Hiratsuka R, et al. Latent 1,3-β-D-glucan acts as an adjuvant for allergen-specific IgE production induced by Japanese cedar pollen exposure., *Allergol Int.* 70, 105-113, 2021
- 2) 安達禎之, 菅野峻史, 平塚理恵, 大野尚仁. スギ花粉に内在するβ-グルカンの自然免疫活性化作用と抗体産生促進作用. *アレルギーの臨床*, 40, 58-62, 2020

用語解説

- (注1) アジュバント;免疫促進物質。抗原物質の体内貯留性を高めたり、自然免疫細胞を活性化したりするなどの働きにより、免疫刺激作用が少ない抗原に対して抗体産生などを促進させる物質。
- (注2) デクチン-1;食細胞や樹状細胞等の自然免疫系細胞の表面に発現する膜タンパク質。特にβ-グルカンなどの糖鎖に結合して、自然免疫の活性化に関与する。
- (注3) β-グルカン;酵母、キノコ、カビなどの細胞壁に多く含まれる多糖体。特にグルコースがβ-1,3-結合して重合したβ-1,3-D-グルカンが有名。
- (注4) 樹状細胞;抗原タンパク質の情報をリンパ球に提示し、抗体産生などの獲得免疫を活性化する。



かなくなれば、IgE抗体産生を減らし、花粉症をコントロールできる可能性があります。今後は、デクチン-1の働きを制御する受容体阻害剤などの探索を行っていく予定です。最近、花粉症と口腔アレルギー症候群(果物や野菜の食物アレルギー)との関連性が報告されています。花粉症を根本から治療することが様々なアレルギーの改善につながると考え、さらに研究を進めていきたいと思

04 Ongoing 診療

総合医科学研究センター 悪性腫瘍治療研究部 部長
細胞加工施設 JIKEI-CPF 運営管理責任者
村橋 睦了



総合医科学研究センター 細胞加工施設 JIKEI-CPFを (Cell processing Facilities) 利用したキムリアによる治療

1 がんの免疫治療としてのキムリア

キムリアの登場は、がん免疫治療の進歩の象徴でもあります。10年前はがん治療に関わる多くの医療者が「免疫治療」に懐疑的でしたが、「チェックポイント阻害薬」という一つのブレイクスルーによって広く支持されるようになりました。細菌やウイルスなど外来病原体に対する免疫システムの対象をがん置き換え「宿主の免疫系を利用して癌を制御する」という考えが実現したと言えます。

がん免疫治療の大きな柱としては以下の2点があります：1) 宿主のがんに対する免疫応答を負に制御する分子を抑制する；2) 宿主のがんに対する免疫応答を増強させる。ノーベル賞受賞の対象となった「チェックポイント阻害薬」は1)に該当しますが、キムリアは2)のグループに分類でき、がん特異的に発現している分子を標的として免疫細胞で攻撃することにより、がん細胞を排除できるという考えに基づいています。リンパ球の1つであるT細胞が上記のような標的分子をT細胞受容体(TCR)により認識し、殺細胞効果を発揮することが多くの研究室で観察されていたので、そのような細胞を多数作製し、がん治療に応用することが期待されていました。

キムリアはこの考え方に沿って開発されていますが、特にレンチウイルスベクターを用いて抗CD19キメラ抗原受容体(CAR)をコードする遺伝子を患者自身のT細胞に導

入し、標的分子であるCD19に反応するよう細胞が加工されています(このような細胞加工物をCAR-Tと呼びます)(図1)。すなわちキムリアはCD19を発現したがん細胞に抗腫瘍効果を示すと考えられ、本邦では2019年3月に1)再発または難治のCD19陽性B細胞性急性リンパ芽球性白血病、2)再発または難治のCD19陽性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)を適応として保険承認されました。その治療成績はこれまでの再発難治血液疾患の予後を顕著に改善するものであり(DLBCL国際共同第II相試験 完全奏功40%, 従来治療7%, Schuster SJ, N Engl J Med. 380, 45, 2019)、対象疾患に苦しむ方々にとって大きな福音となっています。

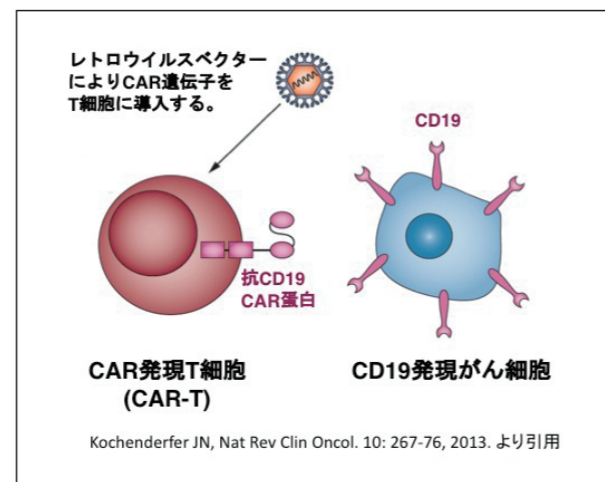
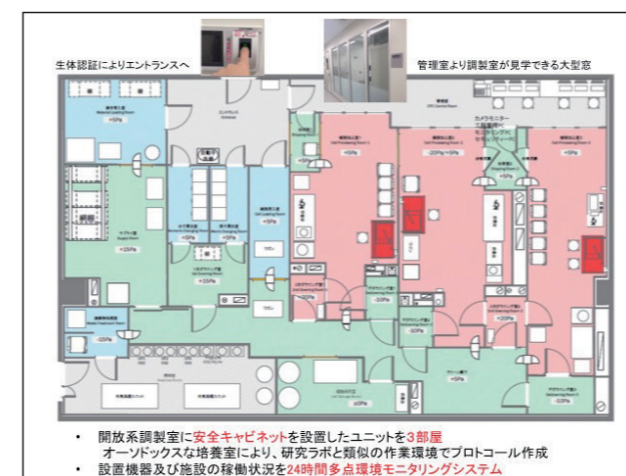


図1 キムリアによる治療のメカニズム

2 キムリアの施設認定基準である「GMP/GCTP」

この細胞製剤キムリアは、製造過程において採取した患者由来リンパ球および遺伝子導入後の細胞加工製品を凍結保管する施設において「GMP/GCTP省令の概念を準用」という要件を課しています。

「GMP」は、Good Manufacturing Practice の略で、「製造管理及び品質管理の基準」と呼ばれており、優れた品質の製品を製造するために必要な製造所の構造設備や製造管理および品質管理の全般にわたって、医薬品製造を行う者が守るべき要件を定めたものです。「GCTP」は Good Gene Cellular and Tissue-based Products Manufacturing Practice の略で、「再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準」とされます。再生医療等製品はヒト由来の細胞・組織等を用いるため、多様で複雑な品質特性を示すとともに高い不均一性を有し、規格で品質を管理することは困難です。したがって、製造工程のコントロールにより品質を担保する品質管理システムの構築が重要になります。本邦においてこの要件を満たし認定された施設は16件、関東では6件という状況で(2020年11月現在)、関連学会・研究会等では多くの患者がキムリアによる治療を受けられず待機していることが報告されています。本学で新たに稼働した細胞加工施設JIKEI-CPFは、ヒト由来細胞を「GMP/GCTP」に準拠し製造することをその理念に掲げており、施設の構造設備と品質管理の体制はキムリアの施設要件を満たしています。また、上記の本邦の現状を鑑みますと、本学でのキムリアの導入は大きな社会



貢献となることが期待されました。さらには附属病院からもご支援をいただき、キムリアによる治療を開始できる体制を速やかに整えることができました。特に、腫瘍・血液内科、輸血・細胞治療部の先生方のご協力に感謝申し上げます。

3 慈恵大学における細胞加工施設 JIKEI-CPFの役割

細胞加工施設 JIKEI-CPF は、先行施設であった「GMP対応細胞・ベクター産生施設」を本間定前教授より引継ぎ、2020年3月外来棟6階に新設されました。同年8月関東信越厚生局より製造許可取得とともに運用を開始しております(図2, 3)。当施設の最大のミッションは、アカデミアシーズの first-in-human を臨床試験もしくは医師主導治療として実施することにあると考えています。このような探索期の臨床研究で初めて分かる知見・トラブルを最適化し、次の開発のステップへつなぐことが目標です。これまで当施設では、本学耳鼻咽喉科による難治性中耳疾患に対する細胞シートを用いた中耳粘膜再生治療および脳神経外科・小児科と悪性腫瘍治療研究部の共同研究として脳腫瘍に対する免疫細胞療法の臨床試験を実施してきました。耳鼻咽喉科による中耳粘膜再生治療は、AMEDの再生医療実用化研究事業として採択され、まもなく医師主導治療の開始が予定されています。このようにJIKEI-CPFでは、再生医療、がん免疫治療など分野を問わず支援する体制を整えており、CPFご利用をお考えの方は学内外・産学を問わずぜひお気軽にご相談ください。皆様の研究にお役に立てますことを願っております。



▲図3 キムリアの製造: CPFでのリンパ球の調製

◀図2 細胞加工施設JIKEI-CPF 全体レイアウト

新たな
講座
の紹介

疼痛制御研究講座

疼痛制御研究講座 特任教授
支持療法疼痛制御研究室 特任教授
上園 保仁

産学連携講座の一講座として、患者さんに届く 新薬創製および薬剤の適応拡大をめざしたい

2020年4月1日より東京慈恵会医科大学医学部に産学連携講座が設置され、その第1号として「疼痛制御研究講座」が開設されました。また、先端医学推進拠点群に2014年より設置されている痛み脳科学センター（センター長：加藤総夫神経研究部教授）内にも「支持療法疼痛制御研究室」が発足し、同研究室においても研究を開始しています。私は10年余にわたり、国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究分野の分野長としてがん患者の生活の質（Quality of Life: QOL）を向上させるための支持・緩和療法の基礎から臨床に至るトランスレーショナルリサーチを行ってきました。今度はそれらを産学連携の下、大学の中で企業との共同研究を通じて発展させていきたいと願っています。

がん患者が悩む痛みは、がん自身によるもの、およびがん治療によるもの、また社会的、心理的そしてスピリチュアルなものなど多岐にわたります。近年の抗がん剤開発の発展そして免疫チェックポイント薬等の誕生は、がん患者の治療の選択を大きく広げられました。その結果、がんの5年生存率データでは64.1%に上るまで治療成績が向上しています。その一方でが



んサバイバーと呼ばれる方は増加し、多くの方ががん治療中の、そして治療後の副作用および体の不調に悩んでいます。加えて、副作用のため治療を中断あるいは断念せざるを得ない方も多くなっています。当講座は、今がんの痛み苦しんでいる患者のために、今使える薬の適応拡大をめざすためのドラッグリポジショニング研究を行っていきます。加えて今対応する薬剤のない明日のがん患者のために、アンメットメディカルニーズのあるところ、たとえば難治性の口内炎における食感・味覚を変えない鎮痛薬や、慢性の神経因性疼痛の鎮痛薬の研究を企業と共に進めています。ドラッグリポジショニングとしては特に、がん患者の副作用を軽減する漢方薬についてその科学的エビデンスを明らかにすることで、漢方薬が確かな処方につながることを願って研究を進めていきます。

私は宮崎県出身であり、県下の小学校で行われていた道徳の授業で宮崎生まれの偉人、高木兼寛先生の業績を学んできました。今その高木先生が創立された大学に所属できる邂逅を、「ご縁」と信じ研究に邁進する所存です。

今後、東京慈恵会医科大学在職中に私たちの手掛けている開発薬が phase I から III までの臨床試験を突破し、患者の手に届く薬剤として上市できればと強く願っております。東京慈恵会医科大学の各部署の先生方、医師の皆様と協力して、また今一緒に研究しているスタッフ、訪問研究員、大学・大学院学生と力を合わせてその思いを達成できればと心より願っています。

新参者でございますが、どうぞご支援ご教授のほど、よろしく願い申し上げます。

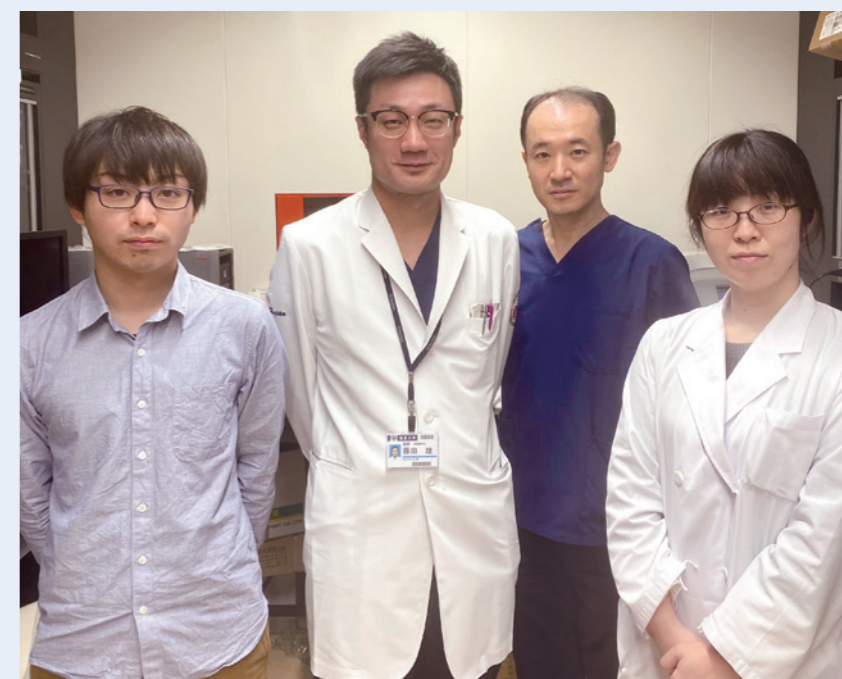
新たな
講座
の紹介

エクソソーム創薬研究講座

エクソソーム創薬研究講座 講師
藤田 雄

日本初 エクソソーム医薬品の開発 慈恵から世界への発信を目指して

2020年10月よりエクソソーム創薬研究講座が開設されました。「エクソソーム」とは、聞き慣れない言葉かもしれませんが、全ての細胞が分泌するナノレベルの小胞顆粒であり、長い間、細胞が分泌するゴミとして考えられてきました。しかし、このエクソソームがRNA、DNAやタンパク質などの遺伝情報を体内の細胞間で送受することで、生命の恒常性維持やさらには病気の進行にも関与している事実が浮き彫りになり、この研究分野が世界中で加速しています。エクソソームを介した遺伝情報の受け渡しは、細胞レベルを超え、近年では母乳を介して母から子へ、日常の食事や飲み物、感染した細菌やウイルスからの送受が明らかになり、まさに種を超えた新しいサイエンスが日々報告されています。呼吸器内科教室では、長い期間に渡る地道な基礎研究から、あるエクソソームの集団が、いわゆる「善玉エクソソーム」として働き、肺疾患における治療薬としての有効性がある研究結果が得られました。その対象疾患は、肺線維症やCOPD、さらには急性呼吸窮迫症候群(ARDS)



への効果が期待され、創薬開発を加速化させるために産学連携講座の設立に至りました。そして、昨今大きな社会問題となっている新型コロナウイルス感染症においても、このエクソソーム治療の有効性が期待されています。重症化したコロナ感染はARDSを呈し、未だ治療薬がない重症新型コロナウイルスに対する全く新しいモダリティとして、エクソソームを吸入薬として治療を行う、慈恵医大発の医師主導治験を講座の大きな目標といたしまし

た。この研究課題は幸い日本医療研究開発機構(AMED)からの支援も受け、国、アカデミア、各企業の産学官が連携することで、日本で初めてとなるエクソソーム医薬品の開発に取り組んで参ります。これらの研究を通じて、慈恵大学におけるトランスレーショナルリサーチがより一層加速し、患者さんに届く医薬品開発の拠点になるように貢献していきたいと考えています。どうぞよろしく願い申し上げます。

新たな
講座
の紹介

腎臓再生医学講座

腎臓再生医学講座
特任教授
小林 英司

非臨床・臨床一体型研究手法で いち早く患者さんに届けたい



非臨床・臨床一体型研究手法とはあまり聞きなれない言葉かもしれませんが、ヒトと体サイズが同じで生理学的にも似通っている実験ブタモデル等を用いて、ヒトでの治験と同じプロトコルで新しい治療法の安全性と有効性を検証する研究手法です。2020年10月より腎臓・高血圧内科教授 横尾隆先生が推進する再生腎臓プロジェクトの一翼を担うべく産学連携講座「腎臓再生医学講座」が新しく誕生しました。私と横尾先生は新たに人の腎臓を作り出すプロジェクト(本誌Vol.33)をYamaton Kと称して、15年の歳月をかけて進めてきました。ここで言うYamatoとは日本の古い名称・大和です。そしてtonとは、日本語でブタの意味で、KとはKidneyの頭文字です。いまになればなんともアニメのような名称と思いがちですが、新講座の紹介にこれ

までの経緯を簡単に説明したいと思います。

Yamaton Kプロジェクトは、横尾先生がラットモデルで検証してきた基礎的実験実史をもとに、ヒトへの応用を目指し、大型動物への挑戦として始まりました。2008年、ブタの腎臓原基をネコに移植する実験に着手しました。ヒト患者への応用の前にペット猫での有効性と安全性の検証することを一次の目標として北里大学獣医学部・岩井聡美先生と明治大学農学部・長嶋比呂志先生らと共同研究を開始しました。2009年には私は自治医科大学教授を辞し、大塚製薬工場の特別顧問となり、企業予算を投じ検証を進めました。そして2013年それまでの片側の腎臓の芽(メタネフロン)では、腎臓が発育し始め産生される尿を一時的にリザーブできる組織をどのように作るかが大きな課

題でしたが、新たにルートを作る画期的な外科的な技術を開発しました。2014年、私は慶應義塾大学医学部に新設された臓器再生医学寄附講座に着任して、非臨床・臨床一体型研究開発手法を展開し、学閥を乗り越えたピッグコンソーシアムを作りました。そして2019年、この腎再生プロジェクトは、AMED研究に採択され、大日本住友製薬との共同研究により、サルをレシピエントとした最終プロトコルでの検証へと進んでいます。この10月から新講座がスタートしましたが、プロジェクトはすでにオール慈恵で取り組んでいます(写真)。

今回の産学連携講座設立は腎臓再生を目指すバイオベンチャー(株)バイオス(林明男氏)が大きな役割を果たしていますが、上記10年以上にわたり産学連携で新たな治療法に共に挑み続けています。

新たな
組織
の紹介

研究推進課紹介

研究推進課 課長
南波 勉
赤石 和久

研究支援部門が 一つになりました



学外及び学内における今日の研究環境の変化は目覚ましく、研究環境変化への即応や新たな研究環境下において研究推進強化を図るには、新たな組織体制の構築が必要と考えられました。そこで、2018年8月の夏季常任理事会において、松藤学長より本学の研究力強化を目指す施策として「研究推進体制の構想」が示され、組織の見直しが本格的に開始されました。その結果、2020年4月に事務組織の改編が行われ、本学の研究を推進する研究推進課が誕生しました。次に研究推進課の主な役割を紹介します。

① 教育と研究に関する知識・情報の一元管理

大学事務部内に学事課と研究推進課を置き、教育と研究の双方に関する知識・情報を一元的に管理できるよう取り組んでいます。また、これにより研究者から照会を受けた際には、ワンストップで迅速に連携対応を目指す体制が構築されました。研究者の利便性向上を図るためアクセスしやすい大学1号館学事課内に臨時窓口を設けて科研費の申請受付を行うなど研究者のための具体的な取り組みも始めています。

② 研究費執行管理、研究倫理の推進とURAによる研究者支援

研究者が獲得した文部科学省科研費、AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)、学内研究費等の研究資金の会計処理や、研究費の適正化を目的とした研究倫理推進センター、教育研究助成委員会、研究を行う上で必要な審査を行う動物実験委員会、遺伝子組み換え委員会等の委員会サポートも行っています。また、URA(リサーチアドミニストレーター)部門は、競争的研究資金に応募する研究者を支援するプレアワード(本学の教員が担当)、研究費を獲得し研究者の知財管理や産学連携を推進するポストアワード、大学のブランディング向上に取り組んでいます。

③ 適切な研究遂行のための事務機能

倫理委員会、認定臨床研究審査委員会(CRB)、認定再生医療等委員会事務局に加え、利益相反管理(COI)委員会、附属病院治験センター事務局を統合して連携、相互支

援の強化を図りました。研究計画、審査から共同研究契約、受託研究に関する契約書類の確認、支援を一連の流れに対応することで、手続きの簡素化、時間短縮を目指しています。

④ 臨床研究支援センターの実施する研究者支援のサポート

センターが開催する臨床研究の科学性、倫理性に関する教育研修や大学院授業の運営サポートを行う他、臨床試験の実施支援、臨床研究法、医学研究に関する倫理指針に定められたモニタリングを当課業務である附属病院治験センターCRCを中心にサポートしています。また、さらなるセンター機能の充実を目指しデータマネージャーの育成も行っています。

関連性の深い教育事務部門と研究事務部門を統合すること、分散していた研究支援事務部門も集約統合することにより、より有機的・機能的な組織連携が実現できました。研究倫理、コンプライアンスを確実なものとし、本学の研究発展の一翼を担えるよう邁進してまいります。

大学院での学びを経て がん患者を支える がん看護専門看護師 としての機能



附属病院 がん看護専門看護師
小嶋 順子

がんは、死因の第1位を推移しており、国民の約2人に1人が罹患するといわれている。2007年がん対策の充実を図るため、第1期がん対策推進基本計画(以下 基本計画)が策定された。2017年からの第3期基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す」ことが全体目標として掲げられている。基本計画には、「がんを診断された時からの緩和ケアの推進」が重点課題の1つに挙げられており、身体的・精神的・社会的苦痛の対応を診断時から行うことで、患者・家族のQOLの向上を目標としている。

私は、2002年日本看護協会の資格認定制度であるがん性疼痛看護認定看護師を取得し、がん患者・家族の全人的苦痛の緩和を目指し看護実践をしてきた。しかし、より複雑で解決困難な問題を抱える、患者・家族への看護の難しさを抱き、2012年東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻修士課程(現博士前期課程)へ進学した。大学院では、患者・家族が直面している

複雑な問題に対し、より高度な専門知識を身につけ、リーダーシップを発揮しながら、がん治療を支え、生活過程を整えていくことの大切さを学ぶことができた。大学院修了後、2016年がん看護専門看護師を取得し、サブスペシャリティを「緩和ケア」として、2019年度まで葛飾医療センターで活動した。

葛飾医療センターでは、看護専門外来であるがん看護相談外来を開設した。ここでは、がんを診断された患者・家族の抱える心理的な苦悩や、多岐にわたる治療選択の迷い、治療に伴う有害事象等の身体的苦痛、診断・治療過程で生じる社会的苦痛に対し、学び得た理論や概念の活用をしながら、看護面談を行ってきた。1人でも多くのがん患者・家族のQOL向上を目指し、緩和ケア・乳がん看護・がん化学療法看護の認定看護師と協働しながら、支援することができた。また、がん診断時から全人的苦痛のスクリーニングを実施することが求められており、スクリーニング導入にむけたシステムを確立した。これにより、がん疼痛によ

る身体的苦痛を早期に緩和でき、社会的苦痛を抱える患者をソーシャルワーカーに繋げたり、精神的苦痛を抱える患者を精神科医師へ繋げたりするなど、がん診断時からの全人的苦痛の緩和にむけた支援体制を確立することができた。ここでは、他施設実習における、がん看護専門看護師の役割の実際から学び得たことを活かした。このように、大学院での学びが、臨床におけるがん看護の質の向上に繋がられている。

医療の複雑化・多様化が進む中で、診断・治療期から終末期に至るまで、がん患者さんの全人的苦痛を理解し、がん治療とQOLの視点にたった看護を提供することは、慈恵の目指す看護である「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えること」に繋がっていくと考えている。附属病院には、現在5名のがん看護専門看護師が在籍している。今後も、大学院での学びを活かしながら、専門性を深化しつつ専門看護師としての6つの役割である、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の機能を果たしていきたい。

The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2020年4月～2020年11月

新入生への思いが凝縮されたビデオメッセージ

医学科110名、看護学科60名の入学許可を宣言し、現在の困難に立ち向かってほしいと激励される

看護学科WEBオープンキャンパス

いつでも視聴できるURLを配信し466名が視聴、オンラインによる個別相談会には43名が参加

公益財団法人メトロ文化財団主催

医療従事者支援「東京都交響楽団音楽会」の開催

医療従事者等165名の教職員が出席、東京都交響楽団4名の弦楽器演奏者様により、全8曲を演奏

子ども向け新型コロナウイルス感染予防動画を制作

< 港区と連携 > 港区内の小中学校の児童生徒に見てもらおうほか
冬休み前には一般公開も予定

東京慈恵会医科大学創立140年記念事業 記念碑建立

COVID-19の本学への影響と

その対策についての全体説明会(2020年9月30日)

説明会に4機関合計で549名の教職員が参加した

第137回成医会総会

「成医会優秀ポスター発表賞」の受賞について

51題の応募から3篇が選出され松藤千弥会長より賞状および副賞が授与される

4月 新入生への思いが凝縮されたビデオメッセージ

医学科110名、看護学科60名の入学許可を宣言し、現在の困難に立ち向かってほしいと激励される

令和2年度の医学部医学科・看護学科の入学式は4月9日に予定されていたが、新型コロナウイルスの感性拡大に伴い中止となった。これに伴い、松藤学長から新入生にお祝いのビデオメッセージを届けることとし、遠隔授業のページ上に掲載した。

メッセージの冒頭、松藤学長は医学科110名、看護学科60名の入学許可を宣言した。そして、建学の精神に基づき、患者中心の医療を実践し、医学・看護学の研究を通じて社会に貢献すると共に、それらを未来の仲間へに伝承してほしいと期待を寄せられた。また、医療者を目指す者として、現在の困難に立ち向かってほしいと激励された。松藤学長の新入生への思いが10分間に凝縮された、心温まるメッセージであった。



4月

7月

看護学科WEBオープンキャンパス

いつでも視聴できるURLを配信し466名が視聴、オンラインによる個別相談会には43名が参加

今年度の看護学科オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止のため、例年の看護学科校舎内でのイベント開催を中止し、遠隔によるWEBオープンキャンパスを行いました。

事前申込み制により夏季と秋季に大学説明会(映像配信)と個別相談会(オンライン)を開催しました。大学説明会は、夏季7/18(土)~27(月)、秋季10/24(土)~11/1(日)の期間中、学長挨拶、本学の看護教育の特徴やカリキュラムなどのWeb動画をいつでも視聴できるURLを配信し、466名が視聴しました。個別相談会は、夏季7/19(日)、秋季10/31(土)に、受験生や保護者43名がオンラインによる個別相談会に参加しました。

受験生や保護者の方々からは、「とても丁寧な説明で分かりやすく、またカリキュラムや行事などがとても充実していると聞いて、より貴学へ進学したくなりました。」との感想が寄せられました。



10月13日

公益財団法人メトロ文化財団主催 医療従事者支援「東京都交響楽団音楽会」の開催

医療従事者等165名の教職員が出席、東京都交響楽団4名の弦楽器演奏者様により、全8曲を演奏

2020年10月13日(火)、公益財団法人メトロ文化財団のご厚情により、医療従事者支援を目的とした「東京都交響楽団音楽会」を2号館講堂で開催いたしました。医療従事者等165名の教職員が出席し、東京都交響楽団4名の弦楽器演奏者様により、モーツァルト、クライスラーなどのクラシックの楽曲から、連続テレビ小説主題歌「星影のエル」など全8曲を演奏いただきました。曲の間には演奏いただいた曲の紹介、演奏者の方々の近況などのお話や、本学医療従事者への感謝のお言葉をいただくなど、心癒されるひとときをご提供いただきました。教職員から、「忙しい時間の合間に参加しましたが、予想以上に大変感動しました。」「生の演奏を聴いて大変癒されました。」「ありがとうございました。」など多くの感謝のコメントをいただきました。



11月 子ども向け新型コロナウイルス感染予防動画を制作

< 港区と連携 > 港区内の小中学校の児童生徒に見てもらおうほか 冬休み前には一般公開も予定

港区と連携して子ども向けの新型コロナウイルス感染予防動画を制作し、動画を使った授業が行われました。

本学と港区が小中学生向けに新型コロナウイルス感染予防について学んでもらおうと動画を制作しました。映像でわかりやすく解説するのが目的でインターネットで公開する他、授業の教材としても活用されます。本学から港区に「児童生徒に正しい知識を身につけ、予防方法を学んでほしい」と協力を申し出、作成が決まりました。動画は約15分で本学感染制御科 堀野哲也 准教授が新型コロナの特徴や感染予防方法、免疫力などを解説しています。感染予防では、正しい手洗いの方法や、規則正しい生活で免疫力が上がることを指導しています。

保健体育の授業などで港区内の小中学校の児童生徒に見てもらおうほか、学校のホームページで子供や父母らがみられるようにし、冬休み前には一般公開も予定しています。

保健の授業で動画をみた港区立御成門小学校では、6年

生の児童たちが「手洗いは爪とか、いろんな場所を洗わなければいけない」「触っただけでは感染しないのが分かった」などと感想を話していました。



東京慈恵会医科大学創立140年記念事業 記念碑建立

9月

今般、東京慈恵会医科大学創立140周年の節目の年を記念して、青山霊園に学祖高木兼寛先生の功績を記した記念碑が2020年9月に建立された。

明治7年に開設された青山霊園は、港区南青山のビル街にほど近い地にありながら、約26ヘクタールの広大な敷地を有し、都心の貴重な緑の空間となっている霊園である。東京都の広報によると、明治以来の個性的な大小様々な墓所や著名人の墓所が数多くあり、墓参者のほか、歴史の勉強や散策に訪れる人も大勢いる。

この霊園の一角に、学祖高木兼寛先生、富子夫人、学祖の長男で東京慈恵会医科大学第2代学長をつとめられた高木喜寛先生をはじめとする高木家の墓所がある。2018年に逝去された当時専務理事の高木敬三先生もまた、ここに眠っている。

この墓所入口の門扉に隣接する場所に、この度記念碑が建立された。大きさは、高さは約100cm、横幅は約70cmで、重量感がありかつ高品質の黒御影石を用いた直接彫刻の仕様となっている。

記念碑には、宮崎県に生まれた学祖が英国人医師

ウィリアム・ウィリスに師事したのち英国留学を経て、軍医官の最高位である海軍軍医総監として活躍したこと、脚気の原因が栄養の欠陥にあることを実証し、ビタミン発見への道を切り拓き欧米で「ビタミンの父」として高く評価されていること、本学の前身である成医会講習所を設立するとともに日本で最初の看護婦教育所を設立し、我が国の近代医学の礎を築き、その後の医学・医療の発展に多大な貢献をしたことなどの功績が記されている。

本年は1月4日に新しい外来棟並びに母子医療センターの開設で幕を開け、創立140周年を祝う記念の年となること、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるい、本学の事業に甚大な影響を与え、関東大震災(1923年)以来経験したことがない大きな危機を感じる年となった。我々がこの難局を乗り越えるにあたり、記念碑に記された学祖の歩みに触れ、本学創立から現在に至る本学の歴史に改めて思いを馳せることは、新しい時代を切り拓く支えになるのではないだろうか。今回の記念碑建立がそうした機会になることを祈念したい。



9月30日

COVID-19の本学への影響と その対策についての全体説明会 (2020年9月30日)

説明会に4機関合計で549名の教職員が参加した

全教職員及び学生を対象とした全体説明会は、2020年9月30日に「COVID-19を乗り越えて」をテーマに開催された。全体説明会では、井田附属病院長から「COVID-19を乗り越えて-病院長の視点から-」と題し、2020年2月10日にダイヤモンドプリンセス号からCOVID-19陽性患者を収容してから今日に至るまでの附属病院の取り組み、COVID-19が診療に与えた影響、今後の安定した病院運営の施策等についてプレゼンテーションがあった。2020年4月4日に「附属病院における緊急事態宣言」が井田附属病院長より発令され、初診・救急患者の受け入れ、待機手術、健診業務を休止、その後、2020年5月下旬より順次診療機能を再開し、同年9月19日から救急・初診外来を含めた診療制限を全面的に解除したとの報告があった。

松藤学長からは、教育・研究面におけるCOVID-19拡大への対応について説明があった。教育面では、入学式・

始業式の中止に加え、対面授業や臨床実習も中止とせざるを得ない状況となり、遠隔授業を中心とする代替授業を活用しながら対応した旨の説明があった。新入生は当面の間大学へ登校することが出来ず、また部活動も禁止としたため、学生生活への支援・サポートを充実する必要がある。一方、研究面においては、医学部における教育・研究は診療と一体であるとの考えから、感染対策・健康管理に十分注意し継続した。最後に、栗原理事長から、COVID-19が本学の財務に与える影響(医療収入の減少、本年度収支差額の見込み、中長期計画の見直し等)や私立医科大学の財務比較のほか、今回の試練を乗り越え、患者さんから愛される病院になるための心構えについて説明があった。その後の質疑応答も活発に行われ、当日は4機関合計で549名の教職員が参加した。なお、本説明会に参加できなかった教職員向けに、後日e-ラーニングでの配信を行った。



第137回成医会総会 「成医会優秀ポスター発表賞」の受賞について

51題の応募から3篇が選出され松藤千弥会長より賞状および副賞が授与される

10月9日

「成医会優秀ポスター発表賞」は、ポスター発表のさらなる発展と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より3篇を選び、授与されるものであります。

第137回成医会総会においては、一般演題(示説発表)に51題の応募があり、次の3篇が「成医会優秀ポスター発表賞」に選出され10月9日(金)、松藤千弥会長より賞状および副賞が授与されました。

受賞演題1 「1次繊毛を介して哺乳類の組織発生を制御する新規分子DYRK2の同定」
河村明良^{1,2}、吉田彩舟²、青木勝彦²、吉田清嗣² 殿 (1.医学科4年 2.生化学講座)

受賞演題2 「ヒトPS細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症の病態研究」
恩田(大戸)亜沙子¹、松野博優¹、長谷川(小川)実奈美¹、鐘ヶ江裕美³、井口保之²、
岡野ジェームス洋尚¹ 殿
(1.総合医科学研究センター 再生医学研究部 2.脳神経内科 3.総合医科学研究センター 基盤研究施設)

受賞演題3 「細胞壁アンカータンパク質SasGはAドメインとLPXTGモチーフを介して黄色ブドウ球菌の
バイオフィーム形成を促進する」
花輪和¹、米本圭吾^{2,3}、千葉明生⁴、斎藤充²、丸毛啓史²、杉本真也⁴、金城雄樹⁴ 殿
(1.医学科6年 2.整形外科学講座 3.神奈川リハビリテーション病院 4.細菌学講座)



2021年 主な行事予定表

1月4日(月)	新年挨拶交歓会(午後4時から大学1号館講堂、テレビ会議)
1月23日(土)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)2021年度入学試験(二次募集)
1月30日(土)	医学科教授退任記念講義(午後3時から2号館講堂)
2月3日(水)	成医会第1266例会 2号館講堂(午後6時から)
2月6日(土)	第115回医師国家試験(2日間)
2月7日(日)	第115回医師国家試験(2日間) 看護学科2021年度第一次入学試験(筆記試験:午前10時 国領キャンパス)
2月9日(火)	看護学科教授会議(臨時) (午前11時) 看護学科2021年度第一次入学試験合格発表(午後1時)
2月10日(水)	看護学科2021年度第二次入学試験(面接 国領キャンパス) 大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)2021年度入学試験(二次募集)合格発表(午後5時30分)
2月11日(木・祝)	2021年度医学科入学試験(一次試験) (午前10時から筆記試験 五反田TOCビル・TOC五反田メッセ)
2月12日(金)	第107回保健師国家試験 看護学科教授会議(臨時) (午後1時)
2月13日(土)	2021年度看護学科入学試験合格発表 (午後1時)
2月14日(日)	第110回看護師国家試験
2月18日(木)	医学科教授会議(臨時)(午後2時) 2021年度医学科入学試験(一次試験合格発表)(午後3時)
2月21日(日)	2021年度医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月22日(月)	2021年度医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月23日(火・祝)	2021年度医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
3月1日(木)	医学科教授会議(臨時)(午前10時) 2021年度医学科入学試験合格発表(午前11時)
3月6日(土)	第96回医学科卒業式・第26回看護学科卒業式(午後1時30分より2号館講堂)
3月16日(火)	第115回医師国家試験合格発表(午後2時)
3月26日(金)	第107回保健師・第110回看護師国家試験合格発表(午後2時)
4月2日(金)	2021年度大学院入学式(午後1時から大学1号館講堂)
4月8日(木)	2021年度医学科・看護学科入学式(午後2時から2号館講堂)
4月9日(金)	1年生 医学科・看護学科オリエンテーション(午前9時から看護学科1階大講堂)
4月13日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
4月29日(木・祝)	京都府立医科大学定期戦
5月1日(土)	創立記念日
6月12日(土)	医学科保護者会春期総会(午後3時から看護学科1階大講堂)
6月19日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂)
7月17日(土)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)(予定)
7月18日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)(予定)
8月11日(水)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)(予定)
8月12日(木)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)(予定)

Notice

2020年1月から10月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

- 第95回医学科卒業式、第25回看護学科卒業式が次の通り挙行された。
2020年3月7日(土) 医学科卒業生 109名
看護学科卒業生 58名
- 東日本大震災九周年追悼式の当日における弔意が2020年3月11日(水)弔旗を掲揚し、午後2時46分を期して黙とう1分間を実施した。
- 2019年度慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校卒業式が次の通り挙行された。
2020年3月14日(土)
慈恵第三看護専門学校 36名
慈恵柏看護専門学校 71名
- 第10回大学院医学研究科看護学専攻博士前期課程修了式が2020年3月21日(土) 午前10 時より大学管理棟4階 看護学専攻大講義室において挙行された。
- 2020年度入学者数
医学部 医学科 110名 看護学科 60名
看護学専攻博士前期課程 10名
看護学専攻博士後期課程 3名
看護専門学校 第三:52名 柏:84名
- 第58回実験動物慰霊祭が6月13日(土)午後3時より、大学1号館講堂(3階)にて執り行われた。
- 10月28日(水)午後1時より、芝増上寺に於いて第116回解剖諸霊位供養法会が行われた。

公示

- 2020年1月23日
中田 浩二教授に、慈恵第三看護専門学校校長を命ずる
(就任年月日 2020年4月1日)
- 2020年2月1日
荒屋 潤准教授に、教授を命ずる
桜井 康良准教授に、教授を命ずる
原 弘道講師に、准教授を命ずる
矢野 真吾氏に、附属病院緩和ケア診療部診療部長(兼任)を命ずる
倉田 二郎氏に、附属病院ペインクリニック診療部長を命ずる
大型連休(GW)の休診日
【トリトクリニックを除く】
5月1日(金)から5月6日(水)は、休診とした。なお、4月29日(水)(昭和の日)は、通常診療日とした。
【トリトクリニック】
5月1日(金)は、本学創立記念日につき、休診とした。
- 2020年3月31日
寄附講座 先進内視鏡治療研究講座を解消する
矢永 勝彦教授は、定年により職を解く
丸毛 啓史教授は、定年により職を解く
堀 誠治教授は、定年により職を解く
谷 諭教授は、定年により職を解く
岡 尚省教授は、定年により職を解く
伊介 昭弘教授は、定年により職を解く
川村 哲也教授は、定年により職を解く
清田 浩教授は、定年により職を解く
新美 茂樹教授は、定年により職を解く
小原 平教授は、定年により職を解く
- 2020年4月1日
大学 内科学講座(神経内科)は、内科学講座(脳神経内科)に名称変更する
大学 産学連携講座 疼痛制御研究講座を設置する
大学 総合医科学研究センター 超音波応用開発研究部は、人工知能医学研究部に名称変更する
大学 総合医科学研究センター GMP対応細胞・ベクター産生施設は、細胞加工施設(JIKEI-CPF)に名称変更する

Notice

大学公報

公示

- 理事会スタッフ部門に教員キャリア推進室を設置する
法人事務局財務部研究支援課は、大学事務部に編入し研究推進課に名称変更する
高橋 都氏に、客員教授を委嘱する
木村 直史氏に、客員教授を委嘱する
里見 絵理子氏に、客員教授を委嘱する
岩瀬 愛子氏に、客員教授を委嘱する
斎藤 充准教授に、整形外科学講座担当教授を命ずる
池上 徹氏に、外科学(消化器外科分野)講座担当教授を命ずる
丸毛 啓史氏に、特命教授を命ずる
堀 誠治氏に、特命教授を命ずる
石川 智久准教授に、教授を命ずる
穂苅 厚史准教授に、教授を命ずる
倉田 二郎准教授に、教授を命ずる
斎藤 裕美准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2023年3月31日)
上園 保仁氏に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2021年3月31日)
増岡 秀一准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2023年3月31日)
西脇 嘉一准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2022年3月31日)
辰野 聡准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2023年3月31日)
太田 有史准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2022年3月31日)
岡崎 史子講師に、准教授を命ずる
藤井 智子氏に、准教授を命ずる
山田 裕紀講師に、准教授を命ずる
河野 優講師に、准教授を命ずる
仙石 鍊平講師に、准教授を命ずる
(特任期間 2020年4月1日～2023年3月31日)
斎藤 充氏に、附属4病院整形外科診療科総括責任者を命ずる
吉田 正樹氏に、附属4病院感染症科・感染制御部診療科総括責任者を命ずる
池上 徹氏に、附属病院肝胆脾外科診療部長を命ずる
吉田 正樹氏に、附属病院感染症科診療部長を命ずる
高島 典子氏に、葛飾医療センター小児科診療部長を命ずる
斎藤 元章氏に、葛飾医療センター産婦人科診療部長を命ずる
山田 裕紀氏に、葛飾医療センター泌尿器科診療部長を命ずる
仙石 鍊平氏に、附属第三病院脳神経内科診療部長を命ずる
太田 有史氏に、附属第三病院皮膚科診療部長を命ずる
小林 俊樹氏に、附属柏病院耳鼻咽喉・頭頸部外科診療部長を命ずる
塩田 祐子氏に、附属病院緩和ケア診療部診療部長代行を命ずる
茂木 雅臣氏に、附属第三病院耳鼻咽喉・頭頸部外科診療部長代行を命ずる
小泉 桃子氏に、附属第三病院歯科診療部長代行を命ずる
浮地 太郎氏に、附属柏病院リウマチ・膠原病内科診療部長代行を命ずる
上園 晶一氏に、附属病院集中治療部診療部長(兼任)を命ずる
井田 博幸氏に、附属病院臨床研修センター長を命ずる
田尻 久雄氏に、名誉教授の称号を贈る
矢永 勝彦氏に、名誉教授の称号を贈る
岡 尚省氏に、客員教授を委嘱する
清田 浩氏に、客員教授を委嘱する
伊介 昭弘氏に、客員教授を委嘱する
谷 諭氏に、客員教授を委嘱する
川村 哲也氏に、客員教授を委嘱する
秋葉 直志氏に、附属柏病院外科診療部長代行を命ずる
- 2020年4月17日
5月1日(金)は、本学創立記念日につき、休業とした
- 2020年5月28日
三木 修氏に、学校法人慈恵大学監事を委嘱する
(就任年月日 2020年7月1日)
- 2020年6月1日
千葉 諭氏に、客員教授を委嘱する
福田 隆浩氏に、准教授を命ずる

大学公報

公示

休診のお知らせ
【トリートメントを除く】
来る7月23日(木)から7月26日(日)は、休診とする。
なお、8月10日(月)(山の日)は、通常診療日となる。

● 2020年7月1日

石橋 由朗准教授に、教授を命ずる
常喜 達裕准教授に、教授を命ずる
遠藤 幸紀氏に、附属柏病院皮膚科診療部長代行を命ずる
(就任年月日 2020年9月1日)

● 2020年7月30日

山本 裕康氏に、常務理事を命ずる
(就任年月日 2020年9月1日)

● 2020年8月1日

沼田 尊功講師に、准教授を命ずる
荻原 秀明氏に、連携大学院教授を命ずる

10月10日(土)は、本学創立者 高木兼寛先生の
記念日に伴う休日につき休診とする

● 2020年10月1日

大学 産学連携講座 腎臓再生医学講座を設置する
大学 産学連携講座 エクソソーム創薬研究講座
を設置する
理事会スタッフ部門 西新橋再整備準備室を終了する
第三病院に第三病院建築準備室(仮称)を設置する
花岡 一成准教授に、教授を命ずる
豊田 圭子准教授に、教授を命ずる
小林 英司氏に、教授を命ずる
(特任期間 2020年10月1日～2021年3月31日)
永森 収志氏に、准教授を命ずる
木下 晃吉講師に、准教授を命ずる
二川 康郎講師に、准教授を命ずる
藤井 智子氏に、附属病院集中治療部診療部長
を命ずる

学事

● 大学院修了者

2020.2.12 岩橋 めぐみ 有村 大吾 森澤 紀彦
2020.2.26 横山 志保 西岡 成知
2020.3.11 佐藤 龍一 奥山 舞 代永 秀幸
佐々木 麻里子 吉井 顕 川島 雅晴
2020.3.25 赤嶺 友代 高橋 健 岡田 梨奈
高野 裕樹
2020.5.13 佐藤 泰輔 隈本 智卓
2020.6.10 柴田 夕夏
2020.7.8 溝渕 圭 島本 奈々
2020.7.22 安藤 隆 岡林 佑典
2020.9.9 嘉山 玲奈 樺 俊介 久我 和寛
2020.10.28 西村 尚

● 学位論文通過者

2020.2.12 浮地 太郎 関根 速子 中瀬古 裕一
篠原 光 武田 泰裕
2020.2.26 丸口 壘 今北 智則 黒河内 喬範
岸田 杏子 茂木 雅臣 高橋 慶太
2020.3.11 鈴木 健一朗 熊谷 祐 橋爪 良輔
渡部 篤史 木下 翔司 赤司 賢一
瀧 徹哉 北里 精一朗 高野 裕太
井上 雄 北村 博顕 木田 吉城
2020.4.8 仲田 健男 勝馬 愛
2020.5.13 富永 光敏 吉田 純 友利 賢太
2020.7.8 齋藤 敬太 高橋 昌寛 久保田 淳
劉 啓正
2020.7.22 福田 健志 關 壽之 水野 雄介
田上 晋 谷田部 沙織
2020.9.9 木村 章嗣 清水 哲也
2020.9.23 笹野 紘之 占部 文彦 板倉 良輔
2020.10.14 中尾 充貴
2020.10.28 大村 和弘 梅田 千里

大学公報

訃報

- ▶ 太田 修司非常勤講師(救急医学)は、2019年9月22日逝去されました。
- ▶ 中村 紀夫名誉教授(脳神経外科学講座)は、2020年1月27日逝去されました。
- ▶ 田邊 晴康元教授(歯科)は、4月6日逝去されました。
- ▶ 鳥海 純客員教授(附属第三病院元院長)は、4月23日逝去されました。
- ▶ 大槻 穰治教授(内科学講座 総合診療内科)は、2020年6月8日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 役員人事

2020年6月9日	金子 義明(再任)	島津 肇子(再任)
理事 徳川 恒孝(再任)	羽野 寛(再任)	久瀬 昭子(再任)
眞柄 直郎(再任)	伊藤 文之(再任)	井上 明子(再任)
高木 公寛(再任)	小川 武希(再任)	梅溪 昌子(再任)
寺島 宗久(再任)	顧問 小森 亮(再任)	鷹司 久美子(再任)
梅溪 通明(再任)	評議員 徳川 幸子(再任)	金子 文子(再任)
竹田 恆和(再任)	賀陽 朝子(再任)	久保田 瑞美(再任)
福原 有一(再任)	阿部 とく江(再任)	中井 喜美子(再任)
栗原 敏(再任)	高木 茂子(再任)	
	岡村 令子(再任)	

● 教職員人事

2020年4月1日	昇級	7等級・看護教員	佐藤 千恵子	6等級・看護教員
		4等級・看護教員	千葉 早希子	3等級・看護教員
		3等級・事務員	平山 千鶴	2等級・事務員
	任免	8等級副校長・看護教員	桶土井 清美	8等級教務主任・看護教員
		7等級教務主任・看護教員	森 美由紀	7等級・看護教員
	転入	2等級・事務員	福田 泰子	葛飾医療センター 業務課

大学公報

東京慈恵会公報

● 行 事

- 2020年3月14日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が挙行された。卒業生95名
- 2020年3月17日(火) 東京慈恵会理事会、評議員会、総会は新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止した。
- 2020年4月 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年度入学式を中止した。尚、入学生(71期生)は95名である。
- 2020年6月9日(火) 公益社団法人東京慈恵会 理事会・評議員会・定時総会を書面会議にて開催した。

● 報 告

2020年度 教務主任養成講習会は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止する。

補助金・助成金

2020年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧

種目	新規申請件数	採択件数		
		新規内定件数	継続内定件数	内定件数合計
新学術領域研究	7	0	2	2
学術変革領域研究 (A)	4	0	0	0
学術変革領域研究 (B)	5	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	2	2
基盤研究 (B)	25	7	10	17
基盤研究 (C)	142	31	58	89
挑戦的研究 (萌芽)	25	3	2	5
挑戦的研究 (開拓)	3	0	0	0
若手研究	91	32	39	71
研究活動スタート支援	14	7	1	8
特別研究員奨励費	4	2	0	2
国際共同研究強化 (A)	1	0	1	1
国際共同研究強化 (B)	3	0	0	0
国際共同研究強化	0	0	1	1
奨励研究	1	0	0	0
合計	325	82	116	198

注) ①採択件数は、2020年11月1日現在の件数となり、転入者及び転出者は除く。
②延長(基金)、学外分担者を除く。

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター

慈恵医大 生涯学習セミナー
月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

月例セミナー

- 開催日時 第2土曜日(4月・6月・11月) 16:00~18:00
- 場所 附属病院(本院) 中央棟8階会議室

第257回

月日・時間 2021年4月10日(土) 16:00~17:00

テーマ 乳腺・甲状腺疾患の診断と治療

演者 乳腺・内分泌外科 田部井 功 准教授

月日・時間 2021年4月10日(土) 17:00~18:00

テーマ 救急室で亡くなった症例を通して内分泌疾患を考える

演者 糖尿病・代謝・内分泌内科 山城 健二 講師

第258回

月日・時間 2021年6月12日(土) 16:00~17:00

テーマ 睡眠薬との上手な付き合い方

演者 精神神経科 山寺 亘 准教授

月日・時間 2021年6月12日(土) 17:00~18:00

テーマ 三叉神経痛

演者 脳神経外科 渡邊 健太郎 助教

第259回

月日・時間 2021年11月13日(土) 16:00~17:00

テーマ バイオフィルムの基礎研究と応用展開

演者 細菌学講座 杉本 真也 准教授

月日・時間 2021年11月13日(土) 17:00~18:00

テーマ 消化器内視鏡領域におけるAI技術の活用

演者 内視鏡部 樺 俊介 助教

注)一部変更することもあります。

第41回慈恵医大夏季セミナー
東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムは2021年9月に予定しています。

お問合せ先:生涯学習センター
TEL: 03-3433-1111(大代表)内線2634

附属病院(本院)

2020年度 みんなの健康教室
きちんと知ろう感染症
~家族みんなの感染予防~

(共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)

● 開催時間 14:00~15:15(開場13:30)

● 場所 NHK放送博物館愛宕山 8Kシアター

第5回

月日 2021年1月16日(土)

テーマ 冬期に流行する感染症
ノロウイルス感染症、インフルエンザについて

演者 感染症科 堀野 哲也 (准教授/診療医長)

テーマ 冬期に流行する感染症の検査について

演者 中央検査部 徳重 真菜 (臨床検査技師)

第6回

月日 2021年3月13日(土)

テーマ 口腔感染症-放置できない齲歯・歯周病細菌-

演者 歯科 高山 岳志 (講師/診療医長)

テーマ ヒトの常在菌と感染症

演者 中央検査部 富永 健司 (臨床検査技師)

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL:03-5400-1202(直通)

慈恵医師会

慈恵医師会産業医研修会
2021年2月28日(日)、5月30日(日)に開催いたします。

(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会
TEL: 03-3433-1111(大代表)内線2636

看護学科

地域連携看護学実践研究センター

(JANPセンター)主催

市民公開講座

2020年11月14日(土)市民公開講座を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、予定した講演の概要をHPに掲載いたしました。

JANPセンターHP ▶ 

●コロナ時代における認知症との付き合い方
慈恵医大精神医学講座: 繁田雅弘 教授

●コロナ時代において認知症の人と家族が安心してくらするために
慈恵医大老年看護学: 梶井文子 教授

上記の内容を掲載した「JANP センター通信」を作成いたしました。
申込先: janp@jikei.ac.jp

お問合せ先:看護学科 学事課
TEL: 03-3430-8686(自動オペレーター)内線2770



←最新情報はこちら

Notice

寄付のお願い

ご寄付の御礼とお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨年2月に新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れて以来、本学は臨床、教育、研究のすべての機能が困難な状況に直面しましたが、皆様のご支援とご協力によって、難局を切り抜けることができました。改めて皆様のご芳志に対して御礼申し上げます。

さて、昨年1月に本院の新外来棟は稼働し、西新橋

キャンパス再整備計画は一区切りいたしました。現在、老朽化が激しい第三病院の建て替えと、学生教育の改善・充実を図るために国領キャンパス再整備計画の検討を始めております。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となります。加えて、教育と研究にも資金が必要です。大学は、今後も今まで以上に自助努力を重ねて参りますが、資金の調達には限度があります。引き続き関係各位のご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 **栗原 敏**

【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱となります。

寄付者名簿

・2019年11月1日～2020年10月31日の寄付者

● 企業	医) 社団ききょう会	五十嵐 良	大久保 利弘	上出 良一
(株) 慈恵実業	理事長 清水 健一郎	石永 隆成	大越 裕文	川村 忠夫
(株) エスアールエル	医) 社団謙昭会	石橋 健一	大島 早希子	河村 学
(株) 山下設計	村田内科クリニック	市毛 敬子	太田 孝夫	木戸 晃
代表取締役社長	理事長 村田 守昭	和泉 滋	大滝 栄典	櫛田 正敏
藤田 秀夫	医) 社団純真会	伊藤 義彦	大橋 力	工藤 大策
ゴールドマン・サックス証券(株)	理事長 加藤 尚彦	乾 宏行	岡井 凡児	久保 惣平
サンシティ 柏	医) 社団天宣会	岩瀬 さつき	岡崎 実	久保 寛之
慈恵ファシリティーサービス(株)	理事長 西浦 天宣	殷 祥洙	岡田 錬之介	久保 慶祐
慈恵メディカルサービス(株)	石井クリニック	宇井 直也	小川 信	倉島 富代
ネットワンシステムズ(株)	石井 義縁	牛込 新一郎	小川 武希	栗田 正
明治安田生命相互会社	青木 菊磨	牛島 定信	奥脇 秀一郎	小立 健
新宿支社	青木 治人	薄井 紀子	落合 幸勝	後町 武志
松岡塗料(株)	赤羽 紀武	内山 晴高	小野 誠	後藤 健吉
● 同窓生	赤羽 清彬	衛藤 公治	小原 誠	小室 順義
医) 財団安田病院	飛鳥田 一朗	遠藤 茂通	梶原 秀俊	近藤 秀丸
医) 慈公会 理事長	荒井 由和	大井田 修	加藤 愛理	斎 謙
幸田 公人	有泉 光子	大櫛 弘篤	金森 紀江	斎藤 篤
	安藤 直人			

Notice

寄付のお願い

齊藤 十紀	中村 亮	渡邊 嘉久	● 保護者会	関 功
齊藤 道顕	中山 元二	渡邊 久之	東京慈恵会医科大学	添島 澄雄
阪口 耀子	成瀬 瞳		保護者会	高尾 信造
坂口 友次朗	西川 嘉伸	● 同窓会支部会・クラス会	● 一般個人	高島 元
坂詰 正巳	額賀 厚德	25期生一同代表	足達 洋六	高橋 悟郎
里井 孝光	橋本 卓雄	佐野 けさ美	安部 恵子	滝川 良子
佐野 尚子	橋本 信也	同窓会愛媛支部	有馬 正人	竹田 恒和
皿井 靖長	濱口 欣也	平成元年卒業生一同	安藤 和男	田辺 廣
島野 緑	林 健人	(卒後30周年)	飯塚 康至	樽谷 孝子
清水 保雄	林 洋子	● 父兄	石毛 健雄	辻 妙子
清水 淑郎	日原 義文	医学科平成5年卒業生	井手 順子	辻 誠二
鈴木 幸彦	藤下 晃	父母の集い	伊藤 一美	土居 佳江
鈴木 直記	堀内 二彦	伊藤 智子	伊藤 博	徳間 隆子
関口 順輔	堀越 茂樹	伊藤 善博	梅溪 通明	富里 昌弘
関口 千春	前納 博	海谷 比呂子	榎田 義雄	戸谷 克昌
前納 宏章	増岡 秀一	梅田 元之	江村 知子	内藤 孝
園部 昌彦	町田 幸三	大木 伸一	大西 清二	長井 啓
高坂 和子	松本 常嘉	角田 浩幸	小川 洋司	中嶋 啓吾
高橋 紀久雄	真山 信郎	岸 睦久	萩原 志津枝	西崎 尚子
高橋 美奈子	丸山 浩一・正子	三平 将彦	堅山 壽子	羽根田 米男
高橋 知宏	三木 誠	篠田 政巳	加藤 健	林 美則
宝意 幸治	宮村 香代子	瀬戸 雅美	神谷 昭男	樋口 美和子
田口 哲也	宮村 正和	千田 章貴	亀岡 悠児	日野 忍
武石 昌則	望月 英明	高泉 ゆみ	神部 範生	藤田 ふさえ
武川 吉和	桃井 俊美	立本 仁	岸 弘之	堀西 麻理
田中 貢	森 温理	出口 晴久	木村 利男	堀野 百合子
谷藤 泰正	柳垣 充	東本 和子	日下部 博・恭子	間瀬 フミ
田丸 操	柳澤 明子	中川 美佐子	黒田 友	松野 健太
田村 展一	山形 成徳	西谷 茂樹	桑野 研司	松野 忠子
辻 和男	山口 富成	野口 春美	後藤 昭	松野 真弓
東海 敏夫	山田 治	平井 慎二	後藤 健吉	村上 武男
富井 純子	山田 奈生子	福永 智一	小林 富乃	村上 太郎
豊田 悟	山田 順子	牧 祐紀子	小林 綾子	望月 政広
中尾 誠利	山田 尚	松原 龍弘	櫻井 美代子	森川 利昭
中川 秀己	山本 勝	松本 康	佐々木 浩介	安井 一隆
長島 健治	結城 研司	宮寄 治	実吉 利彦	山田 隆子
中島 茂基	横打 邦男	宮部 邦子	佐野 利佳	山梨 金五
永田 卓司	吉田 隆一	横井 章一	島田 安男	吉川 玄德
仲田 佳子	吉原 忠男	若林 央	上土井 富士子	吉田 和彦
仲田 浄治郎	吉原 遙子		鈴木 政登	渡邊 良
中村 喜典	米本 恭三		鈴木 康子	

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、大学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、大学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待・贈答の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきま、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 一 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099
FAX 03-5401-1879(直通)



葛飾医療センター

入院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145
FAX 03-3690-7474



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都柏江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830
FAX 03-3430-3611



柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158
FAX 04-7164-1197



高木兼寛 (1849～1920)



学祖・高木兼寛が英国留学から明治13(1880)年11月に帰国した当時、日本では医療を受けることができずに死んでいく人が多かった。高木は、ともすれば研究に偏りがちなドイツ医学ではなく、医療重視のイギリス医学の必要性を強く感じ、同志の医師18名とともに「成医学会」を発足させる。

成医学会が考える医療事業には、貧しい病人のための施療病院の建設と、人間的医師を育てるための医学学校の設立があり、医学教育を目的とした「成医学会講習所」を設立する。これが現在の東京慈恵会医科大学の礎となった。

成医学会講習所の開講に向けて、明治14(1881)年3月2日の「醫事新聞」第38号にはその設立の広告が出され、有志を募った結果、約100名の講習生が応募した。

一方、成医学会が医学研究会としてさらに拡大・発展するには、絶えず患者と接することができる病院の存在が不可欠であった。当時庶民にとって開業医は経済的に敷居が高く、国費によつて国民のために作られた大学病院も、誰もが診療を受けられる状態ではなかった。そのような状況のもと、有志36名が会合を繰り返し、ついに施療病院創立の結論に到る。

賛同者により、病院名は「有志共立東京病院」と決まり、病院の組織がおおかた定まったところで、旧東京府病院跡を借り受けるべく、明治15(1882)年8月、東京府知事・松田道之宛に請願書を提出した。

編集後記

新型コロナウイルス感染症は、社会全般にとつともなく大きな影響を及ぼしており、本学においても病院運営、教育の両面で多大な影響が生じています。

慈恵大学病院は、井田病院長の強力なリーダーシップのもと、早い段階から対策本部を立ち上げ、各診療部や基礎医学講座、看護部、中央検査部、画像診断部などすべての部門が協力して対応にあたり、これまでに500名を超えるコロナ陽性入院患者さんの診療を行ってきました。また、教育面では遠隔授業のための環境を整備しながらコンテンツ作成を急ピッチで進め、新年度から遠隔授業という初めての試みを開始、実習は感染対策を十分に行ったうえで実施しています。

本号では本学がどのように新型コロナウイルス感染症に対応してきたのかを特集として取り上げました。新型コロナウイルス感染症との闘いはまだまだ続きますが、特集を通して本学の状況をご理解いただき、今後ともご支援いただければ幸いです。

本誌では本学に関係する皆さまと価値観や組織の方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せ下さいますよう、お願い申し上げます。

発行 学校法人 慈恵大学
 発行人 理事長 栗原 敏
 連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 学校法人 慈恵大学 広報課
 TEL 03-3433-1111(大代表)
 FAX 03-5400-1281
 e-mail koho@jikei.ac.jp
 号数 第35号
 発行日 2021年1月1日